

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年6月20日

【事業年度】 第159期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

【会社名】 イビデン株式会社

【英訳名】 IBIDEN CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 竹中 裕紀

【本店の所在の場所】 岐阜県大垣市神田町2丁目1番地

【電話番号】 0584(81)3111(代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画本部 財務部長 佐野 尚

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内2丁目4番1号 丸の内ビル29階

【電話番号】 03(3213)7321(代表)

【事務連絡者氏名】 東京支店長 辻 広幸

【縦覧に供する場所】 イビデン株式会社東京支店
(東京都千代田区丸の内2丁目4番1号 丸の内ビル29階)

イビデン株式会社大阪支店
(大阪市淀川区宮原1丁目2番6号 新大阪橋本ビル3階)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄3丁目8番20号)

(注) 上記のイビデン株式会社東京支店及び大阪支店は、法定の縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜のため縦覧に供しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第155期	第156期	第157期	第158期	第159期
決算年月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月
売上高 (百万円)	413,522	309,300	274,204	304,968	300,863
経常利益 (百万円)	67,573	3,484	19,447	33,575	16,256
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	46,019	8,711	11,896	19,740	10,647
包括利益 (百万円)				13,278	9,489
純資産額 (百万円)	299,004	260,483	268,364	271,249	274,901
総資産額 (百万円)	417,138	394,643	361,914	397,580	425,871
1株当たり純資産額 (円)	2,003.19	1,763.36	1,813.57	1,861.11	1,885.53
1株当たり当期 純利益金額又は 1株当たり当期 純損失金額() (円)	310.08	59.76	81.80	137.21	74.41
潜在株式調整後 1株当たり当期 純利益金額 (円)	308.70		81.05	135.63	73.69
自己資本比率 (%)	70.78	64.99	72.88	66.98	63.35
自己資本利益率 (%)	16.21	3.16	4.57	7.45	3.97
株価収益率 (倍)	12.64		39.37	19.15	28.45
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	79,903	52,019	63,426	70,232	37,370
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	56,689	55,162	28,715	46,841	59,291
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	14,771	20,559	37,740	9,238	34,092
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	68,790	83,707	80,045	92,886	104,487
従業員数 〔外、平均臨時 雇用者数〕 (名)	12,695 〔3,411〕	11,346 〔3,021〕	11,959 〔2,432〕	13,051 〔2,701〕	11,374 〔5,495〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 平成21年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第155期	第156期	第157期	第158期	第159期
決算年月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月
売上高 (百万円)	252,285	190,796	182,305	211,734	188,769
経常利益 (百万円)	38,396	1,623	14,317	25,805	10,716
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	25,929	8,610	9,526	15,717	7,510
資本金 (百万円)	64,127	64,152	64,152	64,152	64,152
発行済株式総数 (株)	150,827,878	150,860,557	150,860,557	150,860,557	150,860,557
純資産額 (百万円)	223,120	191,575	199,971	204,077	206,151
総資産額 (百万円)	302,536	301,313	273,005	304,865	333,740
1株当たり純資産額 (円)	1,510.84	1,311.70	1,366.62	1,416.58	1,431.75
1株当たり配当額 (円)	55.00	45.00	30.00	40.00	30.00
(内 1株当たり 中間配当額) (円)	(25.00)	(30.00)	(15.00)	(15.00)	(15.00)
1株当たり当期 純利益金額又は 1株当たり当期 純損失金額() (円)	174.72	59.07	65.50	109.25	52.49
潜在株式調整後 1株当たり当期 純利益金額 (円)	173.94		64.90	107.99	51.98
自己資本比率 (%)	73.61	63.31	72.80	66.49	61.39
自己資本利益率 (%)	11.84	4.16	4.89	7.83	3.69
株価収益率 (倍)	22.44		49.16	24.05	40.33
配当性向 (%)	31.48		45.80	36.61	57.15
従業員数 〔外、平均臨時 雇用者数〕 (名)	2,810 〔39〕	2,952 〔23〕	3,174 〔13〕	3,226	3,385 〔755〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 平成21年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2 【沿革】

年月	沿革
大正元年11月	揖斐川電力株式会社設立
4年10月	西横山発電所発電開始、出力3,000KW、電力供給業開始
6年12月	大垣工場(岐阜県大垣市)を開設
10年6月	東横山発電所発電開始、出力6,400KW(現在・13,600KW)
14年3月	広瀬発電所発電開始、出力5,200KW(現在・8,000KW)
昭和10年12月	川上発電所発電開始、出力2,950KW(現在・4,100KW)
14年8月	河間工場(岐阜県大垣市)を開設
15年1月	商号を揖斐川電気工業株式会社に改称
17年4月	西横山・西平両発電所を譲渡、電力供給業を廃止
18年11月	青柳工場(岐阜県大垣市)を開設
24年5月	東京・大阪・名古屋の各証券取引所に株式上場(平成16年9月 大阪証券取引所上場廃止)
44年4月	特殊炭素製品の製造・販売開始
44年6月	衣浦工場(愛知県高浜市)を開設
47年9月	電子回路製品の製造・販売開始
49年3月	断熱材セラミックファイバーの製造・販売開始
57年11月	商号をイビデン株式会社に改称
62年4月	ファインセラミックス製品の製造・販売開始
62年7月	アメリカ合衆国に販売会社イビデンU.S.A.株式会社を設立(現・連結子会社)
平成元年4月	大垣北工場(岐阜県揖斐川町)を開設
3年3月	アメリカ合衆国にセラミック製品販売会社マイクロメック株式会社を設立(現・連結子会社)
3年12月	オランダに金融統括会社イビデンネザーランズ株式会社(現 イビデンヨーロッパホールディングス株式会社)を設立(現・連結子会社)
5年2月	オランダに販売会社イビデンヨーロッパ株式会社を設立(現・連結子会社)
5年3月	シンガポールに電子関連製品販売会社イビデンシンガポール株式会社を設立(現・連結子会社)
7年5月	アメリカ合衆国に金融統括会社イビデンインターナショナル株式会社を設立(現・連結子会社)
10年10月	愛知県大府市に電子関連製品製造会社として合併会社株式会社ティーアイビーシーを設立(現・関連会社)
11年8月	台湾に電子関連製品販売会社台湾揖斐電股分有限公司を設立(現・連結子会社)
12年5月	フィリピンに電子関連製品製造会社イビデンフィリピン株式会社(現・連結子会社)及び土地管理会社イビデンフィリピンランドホールディングス株式会社を設立(現・非連結会社)
12年6月	中国に電子関連製品販売会社揖斐電電子(上海)有限公司を設立(現・連結子会社)
12年12月	中国に電子関連製品製造・販売会社揖斐電電子(北京)有限公司を設立(現・連結子会社)
12年12月	韓国に電子関連製品販売会社イビデンコリア株式会社を設立(現・連結子会社)
13年5月	フランスにD P F製造会社イビデンD P Fフランス株式会社を設立(現・連結子会社)
13年9月	フランスにセラミック製品販売会社イビデンフランス株式会社を設立(現・連結子会社)
15年9月	アメリカ合衆国にイビデンU.S.A. R&D株式会社(現・連結子会社)及びイギリスにセラミック製品販売会社イビデンU K株式会社(現・連結子会社)を設立
15年11月	ドイツにセラミック製品販売会社イビデンドイツ株式会社(現・連結子会社)を設立
16年1月	中国に揖斐電電子科技(上海)有限公司を設立(現・連結子会社)
16年5月	ハンガリーにD P F製造会社イビデンハンガリー株式会社を設立(現・連結子会社)
19年4月	大垣中央事業場(岐阜県大垣市)を開設
20年5月	マレーシアに電子関連製品製造会社イビデンエレクトロニクスマレーシア株式会社を設立(現・連結子会社)
20年12月	神戸事業場(岐阜県神戸町)を開設
21年11月	カナダに電子関連製品販売会社イビデンカナダ株式会社を設立(現・連結子会社)
23年6月	マレーシアに電子関連製品製造会社イビデンアドバンストパッケージマレーシア株式会社を設立(現・連結子会社)
23年8月	韓国にセラミック製品製造会社イビデングラフィットコリア株式会社を設立(現・連結子会社)
23年9月	シンガポールに金融統括会社イビデンアジアホールディングス株式会社を設立(現・連結子会社)

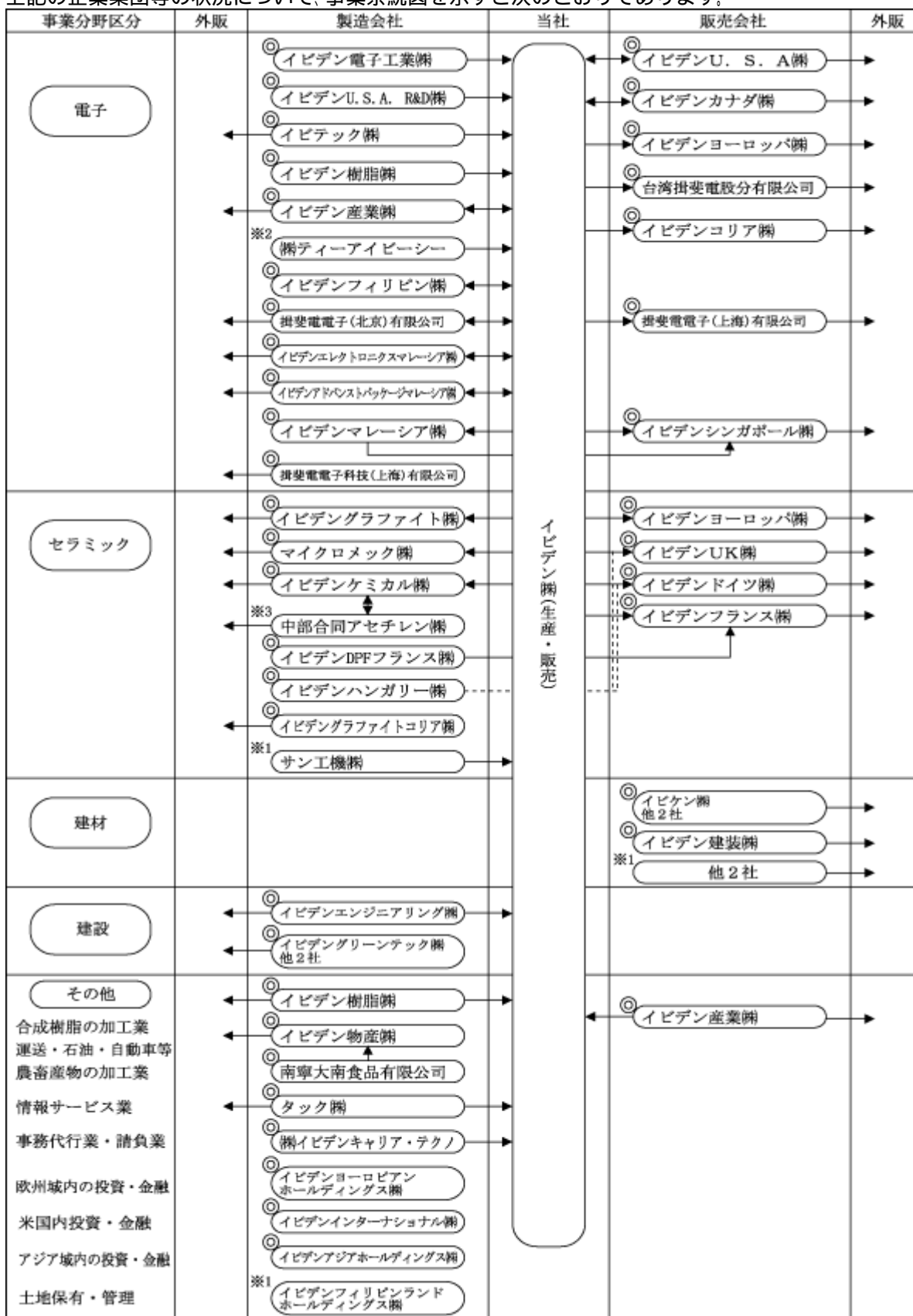
3 【事業の内容】

イビデン株式会社(当社)の企業集団は、子会社47社及び関連会社2社であり、事業内容は、電子、セラミック、建材、樹脂、食品等の製造・販売を主に、設備工事関係、保守、サービス等を行っているほか、グループ製品・原材料等の運送業務を営んでおります。

当社グループの事業内容と当該事業における位置付けは、次のとおりであります。なお、セグメントと同一の区分であります。

区分	主要製品及び事業内容	主要な会社
電子	プリント配線板、パッケージ基板、 プリント配線板パターン設計	当社、イビデン電子工業(株)、イビデン樹脂(株) イビデン産業(株)、イビテック(株)、 (株)ティーアイビーシー イビデンU.S.A.(株)(米国) イビデンU.S.A. R&D(株)(米国) イビデンシンガポール(株)(シンガポール) イビデンマレーシア(株)(マレーシア) イビデンヨーロッパ(株)(オランダ) 台湾揖斐電股分有限公司(台湾) イビデンフィリピン(株)(フィリピン) 揖斐電電子(上海)有限公司(中国) 揖斐電電子(北京)有限公司(中国) イビデン코리아(株)(韓国) 揖斐電電子科技(上海)有限公司(中国) イビデンエレクトロニクスマレーシア(株)(マレーシア) イビデンカナダ(株)(カナダ) イビデンアドバンストパッケージマレーシア(株)(マレーシア)
セラミック	環境関連セラミック製品、特殊炭素製品、 ファインセラミックス製品、 セラミックファイバー	当社、イビデングラファイト(株)、サン工機(株) イビデンケミカル(株)、中部合同アセチレン(株) マイクロメック(株)(米国) イビデンヨーロッパ(株)(オランダ) イビデンD P F フランス(株)(フランス) イビデンフランス(株)(フランス) イビデンU K(株)(イギリス) イビデンハンガリー(株)(ハンガリー) イビデンドイツ(株)(ドイツ) イビデングラファイト코리아(株)(韓国)
建材	住宅設備機器、メラミン化粧板、 化粧板関連加工部材	イビケン(株)、イビデン建装(株) 他4社
建設	法面工事・造園工事等の土木工事の設計・施工、 各種設備の設計・施工	イビデンエンジニアリング(株) イビデングリーンテック(株) 他2社
その他	合成樹脂の加工業 農畜水産物の加工業 情報サービス業 自動車運送業、石油製品の販売 事務代行業、請負業 欧州域内の投資・金融 米国内投資・金融 アジア域内の投資・金融 土地保有会社	イビデン樹脂(株) イビデン物産(株)、南寧大南食品有限公司(中国) タック(株) イビデン産業(株) (株)イビデンキャリア・テクノ イビデンヨーロピアンホールディングス(株)(オランダ) イビデンインターナショナル(株)(米国) イビデンアジアホールディングス(株)(シンガポール) イビデンフィリピンランドホールディングス(株)(フィリピン)

上記の企業集団等の状況について、事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) ◎ 連結子会社
※2 関連会社で持分法適用会社

※1 非連結子会社で持分法非適用会社
※3 関連会社で持分法非適用会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割 合(%)	
(連結子会社)						
イビデン電子工業㈱	岐阜県大垣市	300	電子	100		電子関連製品の製造の一部を委託しております。なお、当社所有の土地、建物、製造設備を賃借しております。 役員の兼任等... 1名
イビデンケミカル㈱	岐阜県大垣市	137	セラミック	64.3		
イビデンセラファイト㈱	岐阜県大垣市	80	セラミック	100		炭素製品を購入しております。なお、当社所有の建物を賃借しております。
イビデン産業㈱	岐阜県大垣市	77	その他	78.5		当社グループの製品、原材料などの運送及び石油製品を納入しております。
タック㈱	岐阜県大垣市	60	その他	100		当社グループ計算業務、ソフト開発をしております。
イビデン樹脂㈱	岐阜県揖斐郡池田町	60	電子 その他	60		当社の電子関連製品の製造の一部を委託しております。なお、当社所有の土地、建物、製造設備を賃借しております。
イビデン物産㈱	岐阜県本巣市	30	その他	100		貸付金有
イビデンエンジニアリング㈱	岐阜県大垣市	30	建設	100		当社設備の設計・施工をしております。
イビテック㈱	岐阜県大垣市	30	電子	100		当社の電子関連製品の設計を委託しております。なお、当社所有の建物を賃借しております。 貸付金有
㈱イビデンキャリア・テクノ	岐阜県大垣市	30	その他	90 (90)		当社グループへ人材派遣をしております。なお、当社所有の土地、建物を賃借しております。
イビデン建装㈱	岐阜県大垣市	10	建材	100 (30)		当社グループの建材製品を製造販売しております。なお、当社所有の土地、建物及び構築物を賃借しております。
イビデングリーンテック㈱	岐阜県大垣市	300	建設	100		当社設備の設計・施工をしております。
アイビーテクノ㈱	岐阜県大垣市	3	建設	100 (100)		
アイビー・グリーン㈱	岐阜県大垣市	3	建設	100 (100)		
イビケン㈱	岐阜県大垣市	96	建材	100		当社グループの建材製品を販売しております。
イビケンウッドテック㈱	愛知県高浜市	95	建材	100 (100)		
中部工材㈱	岐阜県岐阜市	18	建材	100 (100)		

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
イビデンインターナショナル 株	CA, U.S.A.	千米ドル 36,355	その他	100		米国グループ会社の金融サービ スを統括しております。
マイクロメック株	MA, U.S.A.	千米ドル 2,700	セラミック	88.9 (88.9)		当社の炭素製品を加工・販売し ております。
イビデンU.S.A. R&D株	CA, U.S.A.	千米ドル 1,000	電子	100 (100)		当社及び当社グループの製品の 調査・開発企画・製品企画をし ております。
イビデンU.S.A.株(注)2,5	CA, U.S.A.	千米ドル 100	電子	100 (100)		当社の電子関連製品を販売して おります。 役員の兼任等...2名
イビデンカナダ株	ON, Canada	千加ドル 200	電子	100 (100)		当社の電子関連製品を販売して おります。
イビデンヨーロピアンホール ディングス株(注)2	Hoofddorp Netherlands	千ユーロ 35,800	その他	100		欧州域内の投資・金融サービス を統括しております。
イビデンハンガリー株(注)2	Dunavarsany Hungary	千ハンガリー フォリント 9,250,000	セラミック	100 (99)		当社のセラミック製品を製造し ております。
イビデンDPFフランス株	Courtenay France	千ユーロ 25,000	セラミック	100 (100)		当社のセラミック製品を製造し ております。
イビデンドイツ株	Stuttgart Germany	千ユーロ 300	セラミック	100 (100)		当社グループのセラミック製品 を販売しております。
イビデンフランス株	Paris France	千ユーロ 280	セラミック	100 (100)		当社グループのセラミック製品 を販売しております。
イビデンヨーロッパ株	Hoofddorp Netherlands	千ユーロ 272	電子 セラミック	100 (100)		当社の電子関連製品及び炭素製 品を販売しております。
イビデンUK株	London UK	千イギリス ポンド 200	セラミック	100 (100)		当社グループのセラミック製品 を販売しております。
イビデンフィリピン株(注)2	Batangas Philippines	千フィリピン ・ペソ 2,520,000	電子	100		当社の電子関連製品を製造して おります。 役員の兼任等...2名 貸付金有
揖斐電電子(北京)有限公司 (注)2	中国北京市	千米ドル 84,900	電子	100		当社の電子関連製品を製造販売 しております。 役員の兼任等...2名
揖斐電電子(上海)有限公司	中国上海市	千米ドル 1,720	電子	100		当社の電子関連製品を販売して おります。
揖斐電電子科技(上海)有限公 司	中国上海市	千米ドル 1,350	電子	100		当社グループの電子関連製品の 設計を委託しております。
イビデンコリア株	韓国ソウル	千ウォン 420,000	電子	100 (100)		当社の電子関連製品を販売して おります。
イビデングラファイトコリア 株	韓国浦項市	千ウォン 44,100,000	セラミック	100 (100)		当社のセラミック製品を製造し ます。
台湾揖斐電股分有限公司	台湾高雄市	千ニュータイ ワンドル 7,500	電子	100		当社の電子関連製品を販売して おります。
イビデンシンガポール株	Singapore	千シンガポ ール・ドル 300	電子	100 (100)		当社グループの電子関連製品を 販売しております。

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
イベデンアジアホールディングス(株)	Singapore	千シンガポール・ドル 1,000	その他	100		アジア域内の投資・金融サービスを統括します。
イベデンマレーシア(株)	Penang Malaysia	千リンギット 2,500	電子	100 (100)		当社の電子関連製品を製造しております。
イベデンエレクトロニクスマレーシア(株)(注) 2	Penang Malaysia	千リンギット 350,000	電子	100		当社の電子関連製品を製造します。 役員の兼任等... 2名 貸付金有
イベデンアドバンストパッケージマレーシア(株)	Penang Malaysia	千リンギット 70,000	電子	100		当社の電子関連製品を製造します。
南寧大南食品有限公司 (持分法適用関連会社)	中国広西壮 族自治区	千中国元 13,046	その他	100 (100)		
(株)ティーアイピーシー	愛知県大府市	3,250	電子	40		当社の電子関連製品を製造しております。 役員の兼任等... 4名

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 特定子会社に該当しております。

3 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。

5 イベデンU.S.A.(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	40,445 百万円
	経常利益	561 百万円
	当期純利益	353 百万円
	純資産額	2,685 百万円
	総資産額	10,855 百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
電子	5,099 〔4,644〕
セラミック	2,607 〔255〕
建材	330 〔9〕
建設	469 〔61〕
その他	1,498 〔255〕
全社(共通)	1,371 〔271〕
合計	11,374 〔5,495〕

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。なお、臨時従業員には、パートタイマー及び派遣社員の従業員を含んでおります。
- 2 当連結会計年度より、一部の連結子会社において就業人員に含めておりました契約社員等を臨時従業員として集計するよう変更しております。
- また、当連結会計年度より、派遣社員を臨時従業員として集計するよう変更しております。
- これにより、従来の方と比べて、当連結会計年度の就業人員数は1,962名減少し、臨時従業員数は4,690名増加しております。

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
3,385	35.4	12.3	6,009,581

セグメントの名称	従業員数(名)
電子	1,520 〔378〕
セラミック	494 〔106〕
全社(共通)	1,371 〔271〕
合計	3,385 〔755〕

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。なお、臨時従業員には、パートタイマー及び派遣社員の従業員を含んでおります。
- 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 3 当事業年度より、派遣社員を臨時従業員として集計するよう変更しております。
- これにより、従来の方と比べて、臨時従業員数が740名増加しております。

(3) 労働組合の状況

昭和21年2月に結成され、イビデン労働組合と称し、従業員3,385名のうち平成24年3月31日現在の組合員数は2,242名であります。

昭和29年11月に上部団体の合化労連(現 J E C 連合)へ加盟しております。

労使間は円満な関係を維持しており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災による影響は残りますものの、住宅投資や生産が持ち直し、個人消費も底堅く推移するなど回復の兆しが見えてまいりました。一方、欧州における金融不安や新興国の成長鈍化、円高水準の定着など企業を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況にあります。

半導体・電子部品業界におきましては、スマートフォンやタブレット型携帯端末の市場は急成長を続けておりますものの、企業間競争は激しさを増してまいりました。また、これら製品の台頭によりパソコンの需要は停滞し、販売数は前年並みにとどまりました。

自動車排気系部品業界におきましては、欧州市場の停滞と新興国市場の減速により不透明な状況にありますものの、北米市場が回復基調に転じるなど需要は底堅く推移しております。

このような情勢のもと、当社グループでは連結中期経営計画「Global IBI-TECHNO 100 Plan」の基本方針を軸に、事業の構造改革に取り組んでおります。成長が見込まれる市場にビジネスの舵を切るとともに、グローバルな最適地生産体制の構築を進めてまいりました。また、独自の自主改善活動を全社で展開し、ロス改善を軸とした収益基盤の向上に努めております。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は3,008億63百万円と前連結会計年度に比べ41億4百万円（1.3%）減少いたしました。営業利益は155億15百万円と前連結会計年度に比べ182億95百万円（54.1%）減少し、経常利益は162億56百万円と前連結会計年度に比べ173億18百万円（51.6%）減少し、当期純利益は106億47百万円と前連結会計年度に比べ90億93百万円（46.1%）減少いたしました。

セグメントの概況は、次のとおりであります。

電子事業

プリント配線板は、スマートフォン向け製品の受注量は増加しましたものの、販売価格の下落から、売上は微増となりました。

小型・薄型パッケージ基板は、市場の成長が著しいスマートフォンやタブレット型携帯端末向けへの採用が拡大し、売上は大幅増となりました。

高機能・多層パッケージ基板は、世界パソコン市場全体の停滞に加え、企業間競争の激化に伴う販売価格の下落により、売上減となりました。

以上により、電子事業の売上高は、1,712億58百万円となり、前連結会計年度に比べ7.5%減少しました。同事業の営業利益は64億44百万円となり、前連結会計年度に比べ74.7%減少しました。

セラミック事業

ディーゼル・パティキュレート・フィルター（DPF）は、欧州の自動車市場が停滞するなかディーゼル車の販売は堅調に推移し、売上増となりました。

触媒担体保持・シール材は、震災やタイの洪水に伴うサプライチェーンの混乱が早期に終息したことや、北米自動車市場が上向いてきたことから受注は底堅く推移し、売上増となりました。

特殊炭素製品は、欧州における太陽光発電システム導入需要の拡大を背景に、発電パネル向けシリコン製造装置用部材を中心に受注量が増加したことにより、売上増となりました。

以上により、セラミック事業の売上高は、755億20百万円となり、前連結会計年度に比べ9.7%増加しました。同事業の営業利益は63億97百万円となり、前連結会計年度に比べ6.2%増加しました。

建材事業

メラミン化粧板は、住宅着工数の持ち直しに伴い、マンション向けキッチン扉及び収納扉の受注が回復に向かい、売上は微増となりました。

住宅設備機器は、住宅投資が回復基調にあるなか、既存販路の需要が上向いてきたことにより、売上増となりました。

以上により、建材事業の売上高は、206億82百万円となり、前連結会計年度に比べ6.5%増加しました。同事業の営業損失は5億41百万円（前連結会計年度は9億56百万円の営業損失）となりました。

建設事業

法面工事部門は、受注量は確保したものの、震災による公共工事の発注遅れの影響を受け、売上は微減となりました。

造園工事部門は、民間の大型工事が完工したことにより、売上増となりました。

以上により、建設事業の売上高は、124億21百万円となり、前連結会計年度に比べ2.9%増加しました。同事業の営業利益は13億85百万円となり、前連結会計年度に比べ2.4%増加しました。

その他事業

合成樹脂加工部門は、自動車部品向け発泡樹脂製品の需要が堅調に推移し、売上増となりました。

情報関連サービス部門は、医療用健康診断システムの販売が好調に推移し、売上増となりました。

以上により、その他事業の売上高は、209億80百万円となり、前連結会計年度に比べ7.3%増加しました。同事業の営業利益は12億8百万円となり、前連結会計年度に比べ6.0%増加しました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、1,044億87百万円となり、前連結会計年度末より116億1百万円増加いたしました。

各キャッシュ・フローの概要は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によって得られた資金は373億70百万円（前連結会計年度702億32百万円）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益152億58百万円、減価償却費423億87百万円、仕入債務の増加51億49百万円等による増加と、売上債権の増加26億89百万円とたな卸資産の増加61億65百万円、法人税等の支払額120億58百万円等による減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動に使用された資金は、592億91百万円（前連結会計年度468億41百万円）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出575億74百万円等によります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によって得られた資金は、340億92百万円（前連結会計年度は92億38百万円の財務活動により使用された資金）となりました。これは主に社債の発行による収入400億円及び配当金支払による支出57億23百万円等によります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
電子	157,094	8.6
セラミック	60,734	7.4
建材	2,589	10.2
その他	7,851	7.7
合計	228,270	7.8

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
電子	156,413	15.6	20,767	14.3
建設	14,463	57.3	6,186	11.6
合計	170,877	12.1	26,954	9.5

- (注) 1 セラミック、建材部門及びその他部門は主として見込生産であります。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
電子	171,258	7.5
セラミック	75,520	9.7
建材	20,682	6.5
建設	12,421	2.9
その他	20,980	7.3
合計	300,863	1.3

- (注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりです。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
Intel Corp.	121,177	39.7	99,562	33.1

- 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

今後の見通しにつきまして、わが国経済は震災復興需要の本格化を背景に持ち直すものと期待されますが、電力不足問題や原材料価格の変動など景気を下押し懸念もあり、依然として楽観視できないものと思われます。また、半導体・電子部品業界において、円高水準が定着するなか、韓国・台湾の大資本企業による攻勢が続き、当社グループを取り巻く事業環境は引き続き厳しい状況が続くものと予想されます。

このような情勢のもと、当社グループでは連結中期経営計画「Global IBI-TECHNO 100 Plan」の基本方針を軸に、これまで取り組んできた事業の構造改革を加速させてまいります。具体的には、成長が見込まれる市場にリソースを集中して投入し、刻々と変化する事業環境に合わせ機動的かつ柔軟にシフトしてまいります。また、海外生産拠点の有効活用やグローバルな調達体制を構築し、更なる競争力の強化に努めてまいります。さらに、当社独自の自主改善活動であるIPM (IBIDEN Profit Management)を活性化し、全員参加でロス改善及び品質改善を強力に進めてまいります。

当社グループでは、CSR（企業の社会的責任）の実践を経営の大きな柱として位置づけ、全てのステークホルダーから信頼・評価される透明性の高い企業経営を進めてまいります。

イビデン株式会社は、本年11月25日に創立100周年を迎えます。

当社グループといたしましては、次の100年に向け、上記の経営諸課題を着実に遂行することで、持続的な成長と安定的な利益の実現が可能となる企業体質の構築に努めてまいり所存であります。

なお、当社は株式会社の支配に関する基本方針を以下のように定めております。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容

当社は、「私たちは人と地球環境を大切にし、顧客とともに常に新しい価値を創造し、社会の持続的な発展に貢献していきます」という企業理念を具現化するため、「共有すべき価値観」として4つの「価値観」（「人間尊重」、「地球環境との共存」、「顧客優先」及び「イビテクノの弛まざる進化」）と3つの「行動精神」（「果敢に挑戦」、「現地現物」及び「全員参加」）を実践していくことを行動の柱としております。このように、当社は上記「価値観」及び「行動精神」のもと、上記企業理念の具現化を目指すことで、経営の効率性及び透明性を向上させ、当社の企業価値及び株主共同の利益を最大化することを目指しております。

当社の株式は原則として譲渡自由であり、当社の株主も市場における自由な取引を通じて決定されます。当社は、当社株式の大量取得を目的とする買付けが行われる場合において、それに応じるか否かは、最終的には株主のみなさまの判断に委ねられるべきものと考えております。そこで、当社は、そのような買付けが行われる場合、株主のみなさまが、当該買付けが当社の企業価値及び株主共同の利益にどのような影響を及ぼすのかを適切にご判断いただくため、平時より、当社の経営資源の有効化、事業計画、財務計画、資本政策、配当政策の透明性について十分にご理解いただくための諸施策の実施が必要と考えております。

一方で、当社は、以下のような、当社株式の不適切な大量取得行為や買収提案を行う者等、当社の企業価値又は株主共同の利益の向上に資さない者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当でないと考えております。

- (ア)真に当社の経営に参加する意思がないにもかかわらず、ただ株価をつり上げて高値で当社株式を会社関係者に引き取らせる目的で株式の買収を行う、いわゆるグリーンメーラーに該当する者
- (イ)当社の経営を一時的に支配して、当社の事業経営上必要な知的財産権、ノウハウ、企業秘密情報、主要取引先や顧客等を買付者やそのグループ会社に委譲させる等、焦土化経営を行う目的で当社株式の買収を行う者
- (ウ)当社の経営を支配した後に、当社の資産を買付者やそのグループ会社等の債務の担保や弁済原資として流用する予定で当社株式を買い付ける等、資産の流用を目的として当社株式の買収を行う者
- (エ)会社経営を一時的に支配して、当社の事業に当面関係していない不動産、有価証券等の高額資産等を売却処分させ、その処分利益をもって一時的な高配当をさせるか、あるいは、一時的な高配当による株価の急上昇の機会を狙って株式の高値売り抜けをする目的で当社株式の買収を行う者

会社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別の取組み

当社は、大正元年11月の創業以来、ステークホルダーのみなさまとの信頼関係を基盤とし、電子事業、セラミック事業、建材事業、建設事業、その他事業をグループ会社とともに展開しております。

当社は、創立100周年を目標とする連結中期経営計画(平成19年度～平成24年度)「Global IBI-TECHNO 100 Plan」を実施しております。この中期経営計画は、(a)事業の競争力を徹底強化・再構築すること、(b)持続的な経営のための次の柱となる事業を育成すること及び(c)CSRを軸に、活性化された社員とグローバルに公平な企業風土を構築することを目的とし、「イビテクノを進化させ、世界に通用する『イビデン独自のビジネスモデル』を構築し、競争力の強化をする」ことを実現させるための成長戦略であります。

また、株主のみなさまに対する利益還元の一環として、財務状況等を勘案しながら自己株式の取得を積極的に実施してまいります。

以上の取組みは、中期経営計画につきましては、上記(a)ないし(c)を目的としている点で、そして自己株式の取得につきましては、財務状況等を勘案しながら株主のみなさまに対する利益還元の一環として行う点で、それぞれ前記の基本方針に沿うものであり、また当社の企業価値・株主共同の利益の向上に資するものと考えております。

基本方針に照らして不適切な者によって会社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

現時点で、当社は、基本方針に照らして不適切な者によって会社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための具体的な取組み(いわゆる買収防衛策)を予め定めることはいたしておりません。

しかしながら、株主のみなさまから付託を受けた経営者の責務として、当社株式の取引や株主の異動状況を常に注視して、当社株式を大量に取得しようとする者や買収提案を行う者が出現した場合には、以下のプロセスによる適切な対応策を講ずる所存であります。

- (ア)買収者が提案する事業計画の実現可能性・適法性、各事業分野の結合により実現されるシナジー効果及びステークホルダーに対する対応方針等の分析・検討を行うことによる、当該買付けが当社の企業価値及び株主共同の利益に及ぼす影響度合いの分析
- (イ)買収者に対する意見表明書等の提出による質問、意見及び対案等の提示並びに買収者に対する情報収集
- (ウ)株主のみなさまへの可能な限りの情報提供及びステークホルダーからの意見収集
- (エ)上記のほか、当社として適切と考えられるあらゆる措置の実行

さらに、当社は、上記対応策の実効性を確保するため、平時より、経営企画部門、CSR推進部門及び社外の専門家で構成される「企業価値向上委員会」を設置し、定期的に活動を行っております。企業価値向上委員会において実施する取組みは、次のとおりであります。

- ・当社の株価バリュエーション並びに資産構成、資本構成、事業構造及び株主還元政策の分析及び検討
- ・積極的なIR活動の実施策、株主のみなさまに対する恒常的な情報発信及び投資家に対する適時開示等、当社の企業価値向上策の分析及び検討
- ・潜在的買収者及び当該買収者が提案しうる戦略及び当該買収者による買収がステークホルダーに与える影響等に係る情報収集及び分析
- ・買収者が出現した場合の社内対応手順の策定及び必要資料の事前準備並びに社内教育プログラムの策定及び実施

上記対応策及び取組みは、株主のみなさまが大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や、現に当社の経営を担っている当社取締役会の意見を提供し、株主のみなさまが代替案の提示を受ける機会を確保することを主要な目的としております。上記対応策及び取組みにより、株主のみなさまは、十分な情報のもとで、大規模買付行為に応じるか否かについて適切な判断をすることが可能となると考えております。これらは、前記の基本方針に沿うとともに、当社の企業価値・株主共同の利益の向上につながるものと考えております。

なお、買収防衛策の導入につきましては、買収行為をめぐる法制度や関係当局の判断、見解等の動向に留意しつつ、今後も継続して検討を行ってまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、これらの記載には将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断しております。

(1) 市場環境の動向

当社グループの事業は、複数の事業セグメントから構成されており、その中でも主たる事業である電子部門は、主に半導体メーカー、携帯電話メーカー及び各種エレクトロニクス製品を製造するメーカーに、またセラミック部門は、主に自動車メーカーに製品を供給しております。

電子部門の製品に関しては、世界の経済情勢の動向、当社グループ製品が採用されている製品の市場動向を注視し、中長期の市場予測に基づき生産能力の拡充を図っております。また、製品価格の下落による影響を最小限にとどめるため、安定して供給することが可能な地域への生産移管を進めること等により、リスクの最小化を図っております。しかし、想定外の世界の経済情勢の悪化や製品市場の急激な変化により、当社グループの製品の需要が大幅に落ち込んだ場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

セラミック部門の自動車関連製品に関しては、当社グループが製品を販売している欧州及び米国市場における経済情勢の悪化、それに伴う自動車需要の後退により、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。また、これらの主要市場で自動車から排出される排気ガスに対する環境規制の強化が先送りまたは延期となった場合や、ハイブリッド車の想定以上の普及または石油に代わる代替エネルギーの発展などがあった場合には、当社グループ製品の需要の鈍化が見込まれ、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 為替変動について

当社グループは、海外での販売比率が高く、また世界各国に事業を展開していることから、当社グループの外貨建ての輸出入取引や子会社の現地通貨建ての収益、費用、資産、負債は連結財務諸表作成のために円換算されるため、為替相場の変動の影響を大きく受けることとなります。

当社グループにおいては、為替相場の変動リスクを縮小あるいはヘッジするための対策を講じておりますが、為替相場の変動による影響を完全に排除することは不可能であり、米ドル、ユーロ等の主要通貨及び現地通貨に対して、円高が急激かつ長期に進行した場合には、当社グループの業績及び財政状態に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(3) 価格競争について

当社グループの製品については、国内外において厳しい競争下にあり、価格は、一部の新規製品を除き主たる競争要因となっております。電子部門及びセラミック部門のセグメントが属する市場においては、有力な日本企業に加え、電子部門の製品に関しては、台湾、韓国の競合メーカーの台頭もあり、競争は更に激化しております。

当社グループは、常に新規製品・技術の開発、既存技術・製法の改良を進めることにより、単なる価格競争に陥らないよう努力を続けておりますが、価格下落の傾向が長期間にわたり継続し、コスト改善活動がこれに追いつかない場合や高付加価値製品の市場への安定的供給ができない場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(4) 海外での事業展開について

当社グループは、顧客ニーズへの迅速な対応及び製品供給を行うために、販売・生産拠点の現地化を重要な企業戦略の一つとして、積極的に生産拠点の拡充を進めております。

従いまして、世界的な経済情勢の悪化や為替変動リスクに加え、当社グループの生産拠点がある国や地域での政情不安、経済的変動、現地における労使問題の発生や予期し得ない制度、法律または規則の変更等が行われた場合、もしくは特定顧客が当社グループの進出先及び市場から撤退した場合には、海外での販売・生産が重大な影響を受け、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 中国での事業展開について

当社グループで生産・販売している主要製品のうち、電子部門の主要製品でありますプリント配線板に関しては、中国で重要な生産拠点を保有し、同国へ進出している特定顧客への供給体制を確立しております。

しかしながら、同国にて突然の制度、法律または規則の変更等の政治的要因、市場環境の急激かつ大幅な変化（悪化）等の経済的要因等に起因する予期し得ない事態が発生した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 保有有価証券の価格変動について

当社グループは、主に銀行や取引先等との関係構築・維持のための政策上の投資として株式を保有しておりますが、株式相場の大幅な下落、または株式保有先の財政状態の悪化や倒産等により、保有する株式の価額が著しく下落し、しかも回復可能性が認められない場合は、保有する株式の減損処理及び評価損の発生により、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 繰延税金資産の回収可能性の評価について

当社グループは、将来減算一時差異及び税務上の繰越欠損金に対して、将来の課税所得を合理的に見積もった上で回収可能性を判断し、繰延税金資産を計上しておりますが、実際の課税所得が予測と異なり回収可能性に疑義が生じた場合、もしくは税率の変更等を含む各国の税制の変更があった場合には、繰延税金資産の計算の見直しが必要となります。その結果として、繰延税金資産の取崩が必要となった場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 原材料の調達について

当社グループは、多数の外部の取引先から原材料及び部品等を購入しておりますが、当社グループ製品の製造に必要とされる主要原材料・部品の中には、限られた供給元に依存しているものがあります。当社グループは、継続して市場に製品を供給し続けるため、原材料・部品の長期安定供給及び低価格での供給を受けるための努力を行っておりますが、受け続けられるかどうかは、当社グループが制御できないものを含め、需要の急増に伴う供給不足、供給先からの供給遅延及び供給停止等、多くの要因による影響を受けます。このような事態が発生した場合には、当社グループの生産活動に影響を及ぼし、顧客への製品の納入や品質確保に支障をきたす可能性があります。また、原材料等の市場における需給バランスの変化等によりその価格が高騰した場合には、製造原価の上昇を招き、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 設備投資について

設備投資に関して、当社グループは、電子部門及びセラミック部門の国内外での生産拠点整備のため、今後も設備投資を行う予定であります。

投資にあたっては、将来の需要予測と当社グループの競争力を基に、投資効率を勘案して決定しておりますが、競合他社の開発・市場参入動向、最終製品の需要動向の変化により、当初予想した受注量を確保できない場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(10) 特定の販売先への依存について

当社グループは、半導体プラスチックパッケージ基板等の電子関連製品を米国のIntel Corp.(以下、インテル社)に販売しており、インテル社に対する販売実績の総販売実績に対する割合は、平成23年3月期39.7%、平成24年3月期33.1%と比較的高い水準にあります。

インテル社への売上高は、市場における電子部品等の需要動向の影響を受けるほか、同社製CPU(中央演算装置)が搭載されるパソコンの出荷動向及び同社製CPUの価格動向の影響を間接的に受ける可能性があります。

また、インテル社に対する半導体プラスチックパッケージ基板は、当社グループのほか、複数の競合メーカーが供給しております。当社グループは、独自技術の開発と既存技術の深耕を行い、次世代、次々世代の独自の製品を生み出すための研究開発を進めており、インテル社製CPUの世代交代に対しても、継続的な研究開発と設備投資を実施しておりますが、当社グループの製品が継続してインテル社に採用される保証はありません。

(11) 製品の品質について

当社グループは、事業展開している各国の生産拠点で所定の品質基準に基づき、各種製品を生産しております。当社グループが提供する製品は、高い信頼性が求められるものが多いため、製品の品質には細心の注意を払っておりますが、全ての製品について欠陥がなく、将来にわたっても重大な品質問題を引き起こさないという保証はありません。万一、大規模な製造物責任賠償につながるような製品の欠陥及び品質不良が発生した場合には、製造物責任保険で賄いきれない賠償責任を負担する可能性があると同時に、信用の失墜による売上高の低下を招き、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 継続的な新製品開発力

当社グループの製品は厳しい競争下にあるため、常に研究開発の継続による新製品の開発が求められております。そのため、当社グループの収益動向に係わらず、高水準の新製品開発投資を継続して行う必要があります。

しかしながら、技術革新が目覚ましい市場において、顧客のニーズを満足させる新技術を的確に予想することは容易ではなく、当社グループが常に技術の変化に対応し、新製品をタイムリーに開発・供給できるとは限りません。その場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(13) 知的財産権について

技術開発型企業を志向する当社グループは、独自開発した技術等について特許権等の産業財産権を取得するために出願を行っておりますが、特許庁の審査によっては、出願した内容のすべてについて権利が付与されるとは限りません。また、権利を取得しても第三者から異議申し立て等により、取得した権利が取り消しや無効になってしまう可能性があります。

当社グループ所有の知的財産権については、厳しく管理しており、第三者からの侵害にも注意を払っておりますが、万一、不正使用などが行われた場合には、本来得られるべき利益が失われる可能性があります。また、当社グループが第三者の知的財産権を侵害したとして訴訟を提起された場合には、製造差止め請求に係る顧客への補償やこれらの係争に関連する損害賠償の発生、あるいは新たに実施許諾を受けるためのライセンス料等の支払いが当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 情報セキュリティについて

当社グループは、事業運営に関連する技術、営業、個人及び経営全般に関する情報等を多数保有しております。これらの情報管理には、社内規定の整備、従業員教育等の対策を講じておりますが、予見し難い状況の発生、または故意、過失の如何に関係ない人為的な行為に起因する理由等によって、外部に情報が流出し、第三者が不正取得・使用する可能性があります。このような事態が生じた場合には、この対応のために生じる多額の費用負担や顧客等からの信頼の失墜が、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(15) 災害等に関する影響

当社グループでは、製造ラインの操業停止による影響を最小限にするため、生産設備の定期的な点検、保守作業を行っております。しかし、生産施設で発生する災害、生産設備の故障、停電等の生産活動の妨げとなる事象につきまして、完全に防止または軽減できる保証はありません。

現状、当社グループの日本国内における製造、研究開発拠点は岐阜県西濃地区を中心とする地域に集中しており、地震、洪水等大規模な自然災害が発生した場合には、生産及び出荷が停止する可能性があります。製造拠点並びに生産設備に重大な損害が発生し、生産及び出荷が長期にわたり停止した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

技術供与関係

契約会社名	契約締結先	国名	契約品目	契約内容	契約期間
イピデン株式会社 (当社)	住友金属工業株式会社	日本	パッケージ基板	技術指導及び実施権の供与	平成8年4月から 平成28年3月まで
	日本特殊陶業株式会社	日本	パッケージ基板	実施権の供与	平成9年4月から 平成28年3月まで

(注) 実施許諾製品の売上高に対して所定のロイヤリティを受け取ります。

6 【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発活動は、当社の複合先端技術型企業志向の方針のもとに進めております。また、研究開発活動は中核となる当社で集中して行っており、技術開発部門、生産技術部門並びに各事業本部の技術部門において幅広く進めております。

技術開発部門におきましては、電子関連及びセラミック関連の分野でコア技術の深耕と、独自のマーケティングに基づいた製品企画を行い、次世代、次々世代に向けて独創的な新製品を生み出すための研究開発を進めております。

また、生産技術部門におきましては、競争力を強化するための革新的な工法及び設備開発に積極的に取り組んでおります。

さらに、各事業部の技術部門におきましては、既存事業の拡大を狙った新技術・新製品の開発を進めております。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は、161億23百万円であります。

主な研究開発活動状況は次のとおりであります。

電子

次世代、次々世代の半導体パッケージ用基板やプリント配線板に求められる要素技術、プロセス技術の開発を進めております。また、さらなる高付加価値化に向けた機能内蔵基板や環境負荷低減を目指した新規プロセスの研究も行っております。

研究開発費の金額は、110億57百万円であります。

セラミック

自動車関連の環境対策部品として、ディーゼル・パティキュレート・フィルター(DPF)及び触媒担体保持シール材の研究開発を中心に進めております。また、環境・エネルギー関連向けとして特殊炭素製品及びファインセラミック製品の研究開発も行っております。

研究開発費の金額は、50億10百万円であります。

建材

環境に優しい廃棄物を利用した新素材の開発検討を行っております。

また、新規分野に向けての研究開発活動を行っております。

研究開発費の金額は、10百万円であります。

建設

地球環境にやさしい「緑」をテーマにした技術開発に取り組んでおります。のり面事業では、のり面防災と全面緑化を可能とした特許技術(GTフレーム工法)に関連する研究開発、造園事業では、壁面や屋上などの特殊空間緑化による技術開発に注力しており、地球温暖化防止につながる緑化事業を中心とした研究開発を行っております。

研究開発費の金額は、38百万円であります。

その他

主に合成樹脂の加工業をしておりますイビデン樹脂(株)の新分野として、射出成形製品を用いた新用途製品開発を行っております。

研究開発費の金額は、7百万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

資産

当連結会計年度末における総資産は4,258億71百万円(対前年同期比7.1%増)となりました。流動資産は2,116億39百万円(同12.5%増)、固定資産は2,142億32百万円(同2.3%増)となりました。

流動資産の増加の主な要因は、現金及び預金が109億78百万円、たな卸資産が60億9百万円増加したことによります。

固定資産の増加の主な要因は、有形固定資産が37億61百万円増加したことによります。

負債及び純資産

当連結会計年度末の負債合計は、1,509億70百万円(同19.5%増)となりました。流動負債は1,005億2百万円(同11.8%減)、固定負債は504億68百万円(同308.7%増)となりました。

流動負債の減少の主な要因は、未払金が56億80百万円、未払法人税等が84億43百万円減少したことによります。

固定負債の増加の主な要因は、社債が400億円増加したことによります。

当連結会計年度末の純資産合計は2,749億1百万円(同1.3%増)となりました。

純資産合計の増加の主な要因は、当期純利益を計上したことによります。なお、その他詳細な増減内容につきましては、第5「経理の状況」 1「連結財務諸表等」(1)「連結財務諸表」 「連結株主資本等変動計算書」に記載のとおりです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の67.0%から63.4%となりました。また、1株当たり純資産額は、前連結会計年度末の1,861円11銭から1,885円53銭となりました。

(2) 経営成績の分析

売上高及び営業利益

事業別の売上高及び営業利益の概況につきましては、第2「事業の状況」 1「業績等の概要」(1)「業績」に記載のとおりであります。

売上原価は、売上の増加に伴い2,358億67百万円(対前年同期比6.1%増)となりました。売上原価率では固定費の増加などにより5.5ポイント悪化し、78.4%となりました。

営業外損益及び経常利益

営業外損益は、前連結会計年度の 2億36百万円(純額)から7億40百万円(純額)となり、大幅に改善しました。主な要因は、前連結会計年度に8億98百万円計上した休止固定資産減価償却費が対象資産の減少に伴い、当連結会計年度では発生していないためであります。

この結果、経常利益は、162億56百万円(対前年同期比51.6%減)となりました。

特別損益

特別損益は、前連結会計年度の 32億 1 百万円(純額)から 9 億98百万円(純額)となり、改善しました。主な要因は、固定資産除却損を前連結会計年度では17億29百万円計上したことに対し、当連結会計年度では6 億57百万円計上したことによります。

この結果、税金等調整前当期純利益は、152億58百万円(対前年同期比49.8%減)となりました。

法人税等(法人税等調整額を含む。)

法人税等は、前連結会計年度の104億33百万円から、当連結会計年度は43億38百万円となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益が減少したことによります。

少数株主利益

少数株主利益は、前連結会計年度の 1 億98百万円から、当連結会計年度は 2 億72百万円となりました。主な要因は、少数株主を有する子会社の当期純利益が増加したことによります。

当期純利益

当期純利益は、106億47百万円(対前年同期比46.1%減)となりました。

1 株当たり当期純利益は、74円41銭(前連結会計年度は137円21銭)となりました。

ROE(自己資本利益率)は、3.5ポイント減少し、4.0%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

営業活動によるキャッシュ・フローで373億70百万円の収入となり、投資活動によるキャッシュ・フローで592億91百万円の支出となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローで340億92百万円の収入となった結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ116億 1 百万円増加し、1,044億87百万円となりました。

詳細につきましては、第2「事業の状況」 1「業績等の概要」 (2)「キャッシュ・フローの状況」の項目をご参照ください。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度は、生産能力増強を目的とした設備の新設を中心に総額473億13百万円の設備投資を実施いたしました。

電子事業では、総額359億円の設備投資を実施いたしました。このうち主なものは、パッケージ基板製造設備に232億42百万円及びプリント配線板製造設備に124億92百万円であります。

セラミック事業では、総額60億52百万円の設備投資を実施いたしました。このうち主なものは、D P F 製造設備に44億96百万円及び特殊炭素製品向けの製造設備に14億54百万円であります。

建材、建設、その他事業及び全社では、総額53億61百万円の設備投資を実施しております。

所要資金につきましては、自己資金及び社債の発行によっております。

また、当連結会計年度におきまして、生産能力に重要な影響を及ぼすような設備の除却、撤去等はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
大垣事業場 (岐阜県大垣市)	電子	生産設備	8,200 [145]	8,046 [0]	425 (69,588) <2,169> [2,756]		420	17,092 [145]	573
大垣中央事業場 (岐阜県大垣市)	電子	生産設備	13,855 [1,161]	2,165 [1]	4,130 (111,269)		296 [0]	20,448 [1,163]	672
青柳事業場 (岐阜県大垣市)	電子 セラミック	生産設備	3,205 [78]	853	148 (97,207)	13	139	4,360 [78]	559
河間事業場 (岐阜県大垣市)	電子 セラミック	生産設備	1,901 [12]	3,912	462 (55,728) <4,507> [673]		280	6,557 [12]	518
大垣北事業場 (岐阜県揖斐川町)	セラミック	生産設備	2,876	305	940 (99,642)	2	27	4,152	295
衣浦事業場 (愛知県高浜市)	セラミック	生産設備	492 [59]	48 [0]	1,591 (72,743) [26]	2	25	2,161 [60]	78
神戸事業場 (岐阜県神戸町)	セラミック	生産設備	3,630 [70]	511	1,003 (68,239)	4	48	5,198 [70]	116
動電力 (岐阜県大垣市) 他岐阜地区7カ所	全社	発電設備	3,420 [0]	1,370	114 (503,828) <667>	920	6	5,832 [0]	11
本店 (岐阜県大垣市)	電子 セラミック 全社	その他設備	1,228 [118]	36	1,610 (193,137) <29,737> [21]	51	332	3,258 [118]	212
東京支店及び営業所 (東京都千代田区)	電子 セラミック 全社	その他設備	2				1	4	20
技術開発 (岐阜県揖斐川町) (岐阜県大垣市)	電子 セラミック	研究開発 設備	1,271	1,815	107 (6,148)		339	3,533	241
福利施設 (岐阜県大垣市・ 愛知県高浜市他)	電子 セラミック	その他設備	955	19	459 (76,701) <7,905>		6	1,441	9

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
イベデン電子工業(株)	本店 (岐阜県大垣市)他	電子	検査機設備	16	442	-	-	3	463	268 [36]
イベデン物産(株)	本巢工場 (岐阜県本巣市)	その他	食品加工設備	347	170	128 (12,667)	-	6	654	77 [72]
イベディングリーントック(株)	本店 (岐阜県大垣市)他	建設	事務所等 その他設備	204	1	956 (15,366)	8	8	1,181	215 [45]
イベデンエンジニアリング(株)	本店 (岐阜県大垣市)他	建設	その他設備	244	198	515 (5,660)	2	18	978	244 [16]
タック(株)	本店 (岐阜県大垣市)他	その他	その他設備	449	-	370 (4,048)	2	41	864	289
イベデン産業(株)	本店 (岐阜県大垣市)他	その他	その他設備	531	102	948 (80,161) <35,696>	23	33	1,638	325 [81]

(3) 在外子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
イビデンフィリ ピン(株)	マニラ工場 (Batangas Philippines)	電子	生産設備	3,945	15,481	- <126,069>	24	504	19,955	1,291 [2,047]
イビデンD P F フランス(株)	フランス工場 (Courtenay France)	セラミック	生産設備	55	2,917	- <57,025>	1,338	32	4,344	285
揖斐電電子(北 京)有限公司	北京工場 (中国北京市)	電子	生産設備	3,898	5,206	- <116,608>	-	324	9,428	2,535 [22]
イビデンエレク トニクスマレー シア(株)	マレーシア工場 (Penang Malaysia)	電子	生産設備	7,503	13,139	- <185,518>	-	674	21,317	1,265
イビデンハンガ リー(株)	ハンガリー工場 (Dunavarsany Hungary)	セラミック	生産設備	8,222	1,364	771 (224,860)	-	555	10,913	1,591

- (注) 1 投下資本は建設仮勘定(27,022百万円)を除く、有形固定資産の帳簿価額であります。なお、帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品であります。
- 2 上記中<外数>は、連結会社以外からの賃借設備であります。土地の<外数>は、連結会社以外からの賃借している面積を表示しております。
- 3 上記中[内数]は、連結会社以外への賃貸設備であります。土地の[内数]は、連結会社以外への賃貸している面積を表示しております。
- 4 現在休止中の主要な設備はございません。
- 5 上記の他、主要な賃借設備として、以下のものがあります。

(1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間賃借料 (百万円)
大垣事業場 (岐阜県大垣市)	電子	生産設備	156

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間賃借料 (百万円)
イビデン樹脂(株)	本社 (岐阜県池田町)	電子 その他	生産設備	207

- 6 従業員数の[外数]は、臨時従業員数を表示しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定年月	完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
イビデン(株)	河間事業場 (岐阜県大垣市)	電子	生産設備	7,580	5,827	自己資金	平成22年8月	平成25年3月	-
イビデン(株)	広瀬発電所 (岐阜県揖斐川町)	全社	発電設備	1,850	39	自己資金	平成22年8月	平成24年10月	-
イビデン(株)	広瀬発電所 (岐阜県揖斐川町)	全社	発電設備	1,580	888	自己資金	平成23年4月	平成24年9月	-
イビデンフィ リピン(株)	マニラ工場 (Batangas Philippines)	電子	生産設備	16,000	11,765	自己資金 社債発行 資金	平成22年4月	平成24年12月	-
イビデンフィ リピン(株)	マニラ工場 (Batangas Philippines)	電子	生産設備	6,950	1,927	自己資金 社債発行 資金	平成23年6月	平成25年8月	-
イビデンフィ リピン(株)	マニラ工場 (Batangas Philippines)	電子	生産設備	2,400	347	自己資金	平成23年5月	平成25年3月	-
揖斐電電子 (北京)有限 公司	北京工場 (中国北京市)	電子	生産設備	2,882	-	自己資金	平成24年2月	平成25年10月	-
イビデンエレ クトロニクス マレーシア(株)	マレーシア工場 (Penang Malaysia)	電子	生産設備	32,350	18,460	自己資金 社債発行 資金	平成22年5月	平成24年10月	-
イビデンエレ クトロニクス マレーシア(株)	マレーシア工場 (Penang Malaysia)	電子	生産設備	26,000	-	自己資金 社債発行 資金	平成23年10月	平成25年12月	-
イビデンDP Fフランス(株)	フランス工場 (Courtenay France)	セラミック	生産設備	1,330	-	自己資金	平成23年6月	平成25年1月	-
イビデンハン ガリー(株)	ハンガリー工場 (Dunavarsany Hungary)	セラミック	生産設備	2,740	1,519	自己資金	平成22年4月	平成24年9月	-
イビデンハン ガリー(株)	ハンガリー工場 (Dunavarsany Hungary)	セラミック	生産設備	5,670	1,095	自己資金	平成23年8月	平成25年11月	-
イビデンハン ガリー(株)	ハンガリー工場 (Dunavarsany Hungary)	セラミック	生産設備	1,150	-	自己資金	平成24年2月	平成25年9月	-
イビデングラ ファイトコリ ア(株)	浦項工場 (韓国浦項市)	セラミック	生産設備	11,116	677	自己資金	平成23年8月	平成26年5月	-

(注) 1 上記生産設備等は、主に能力増強投資及び合理化更新投資であります。完成後の増加能力につきましては、その算定が困難であることから記載を省略しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却・売却を除き、重要な設備の除却・売却計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	230,000,000
計	230,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月20日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	150,860,557	同左	東京証券取引所 名古屋証券取引所 (以上第一部上場)	単元株式数 100株
計	150,860,557	同左		

- (注) 1 内120,000株は青柳事業場現物出資(28百万円)によるものであります。
2 「提出日現在」欄の発行数には、平成24年6月1日以降提出日現在までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成20年6月24日定時株主総会決議(インセンティブ型)

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	2,945	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	294,500	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	3,561	同左
新株予約権の行使期間	自 平成22年8月1日 至 平成24年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 3,561 資本組入額 1,781	同左
新株予約権の行使の条件	(イ)新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役、執行役員、理事若しくは正社員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)新株予約権者の死亡後6ヶ月間に限り、その者の相続人は権利を行使することができる。 (ハ)その他権利行使の条件は、当該定時株主総会及び当社取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みにに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

平成20年6月24日定時株主総会決議(報酬型)

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	620	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	62,000	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	3,561	同左
新株予約権の行使期間	自 平成22年8月1日 至 平成24年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 3,561 資本組入額 1,781	同左
新株予約権の行使の条件	(イ)新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役又は執行役員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)新株予約権者の死亡後6ヶ月間に限り、その者の相続人は権利を行使することができる。 (ハ)その他権利行使の条件は、当該定時株主総会及び当社取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

平成21年6月23日定時株主総会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	4,975	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	497,500	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	3,140	同左
新株予約権の行使期間	自 平成23年8月1日 至 平成25年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 3,140 資本組入額 1,570	同左
新株予約権の行使の条件	(イ)新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役、執行役員、理事若しくは正社員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)新株予約権者の死亡後6ヶ月間に限り、その者の相続人は権利を行使することができる。 (ハ)その他権利行使の条件は、本定時株主総会及び当社取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

平成22年 6 月22日定時株主総会決議

	事業年度末現在 (平成24年 3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年 5月31日)
新株予約権の数(個)	5,445	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	544,500	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	2,567	同左
新株予約権の行使期間	自 平成24年 8月 1日 至 平成26年 7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,567 資本組入額 1,284	同左
新株予約権の行使の条件	(イ)新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役、執行役員、理事若しくは正社員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)新株予約権者の死亡後6ヶ月間に限り、その者の相続人は権利を行使することができる。 (ハ)その他権利行使の条件は、本定時株主総会及び当社取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みにに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成19年4月1日～ 平成20年3月31日 (注)	1,040,820	150,827,878	1,063	64,127	1,063	64,554
平成20年4月1日～ 平成21年3月31日 (注)	32,679	150,860,557	24	64,152	24	64,579

(注) 新株予約権の行使(旧転換社債等の権利行使を含む。)による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	0	84	43	347	364	21	38,412	39,271	
所有株式数 (単元)	0	560,623	13,430	154,662	433,466	98	344,843	1,507,122	148,357
所有株式数 の割合(%)	0.00	37.20	0.89	10.26	28.76	0.01	22.88	100.00	

(注) 自己株式は、7,769,826株であり、「個人その他」に77,698単元、「単元未満株式の状況」に26株含まれており
ます。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	12,501	8.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	9,174	6.08
株式会社豊田自動織機	愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地	6,221	4.12
株式会社十六銀行	岐阜県岐阜市神田町8丁目26番地	4,130	2.74
株式会社大垣共立銀行	岐阜県大垣市郭町3丁目98番地	4,120	2.73
ジェーピーモルガンチェースバンク 380055 (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部)	270 PARK AVENUE, NEW YORK, NY 10017, U.S.A. (東京都中央区月島4丁目16番13号)	2,707	1.79
三井生命保険株式会社	東京都千代田区大手町2丁目1番1号	2,540	1.68
イビデン協力会社持株会	岐阜県大垣市神田町2丁目1番地	2,343	1.55
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	2,308	1.53
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, U.S.A. (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー)	2,224	1.47
計		48,271	32.00

(注) 1 上記所有株式のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,501千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,174千株

2 キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー及びその共同保有者(計4社)から、平成23年10月21日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成23年10月14日現在で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株式数 (千株)	株券等保有割合 (%)
キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー他3社	333 South Hope Street, Los Angeles, CA 90071 U.S.A 他	5,305	3.52

3 住友信託銀行株式会社及びその共同保有者(計5社)から、平成23年11月21日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成23年11月15日現在で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株式数 (千株)	株券等保有割合 (%)
住友信託銀行株式会社 他4社	大阪府中央区北浜4-5-33 他	8,134	5.39

4 上記のほか当社所有の自己株式7,769千株(5.15%)があります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,769,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 142,942,400	1,429,424	
単元未満株式	普通株式 148,357		
発行済株式総数	150,860,557		
総株主の議決権		1,429,424	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が26株含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) イビデン株式会社	岐阜県大垣市神田町2丁目 1番地	7,769,800		7,769,800	5.15
計		7,769,800		7,769,800	5.15

(9) 【ストックオプション制度の内容】

第155回定時株主総会決議ストックオプション制度(インセンティブ型)

当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。

当該制度は、会社法(平成17年法律第86号)第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、平成20年6月24日第155回定時株主総会終結時に在任する執行役員、理事及び従業員並びに当社連結子会社の取締役に対して新株予約権を無償で発行することを平成20年6月24日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

決議年月日	平成20年6月24日
付与対象者の区分及び人数	当社執行役員 9名 当社理事及び使用人 164名 当社連結子会社の取締役 30名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	345,000株
新株予約権の行使時の払込金額	3,561円(注)
新株予約権の行使期間	平成22年8月1日から平成24年7月31日まで
新株予約権の行使の条件	(イ)新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役、執行役員、理事若しくは正社員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)新株予約権者の死亡後6ヶ月間に限り、その者の相続人は権利を行使することができる。 (ハ)その他権利行使の条件は、当該定時株主総会及び当社取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みにに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 当社が普通株式につき株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社が時価を下回る価額で普通株式につき新株式の発行又は自己株式の処分を行う場合(単元未満株主による単元未満株式売渡請求に基づく自己株式の売渡し、普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の行使の場合を除く。)は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

上記の算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社が保有する普通株式に係る自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に、「新規発行前の株価」を「自己株式処分前の株価」にそれぞれ読み替える。

第155回定時株主総会決議ストックオプション制度(報酬型)

当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。

当該制度は、会社法(平成17年法律第86号)第361条第1項第3号に規定される報酬等のうち金銭でないものとして、平成20年6月24日開催の第155回定時株主総会終結時に在任する当社取締役に対しストックオプションとして新株予約権を無償で発行することを平成20年6月24日の定時株主総会において決議されたものであります。

決議年月日	平成20年6月24日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 13名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	78,000株
新株予約権の行使時の払込金額	3,561円(注)
新株予約権の行使期間	平成22年8月1日から平成24年7月31日まで
新株予約権の行使の条件	(イ)新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役又は執行役員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)新株予約権者の死亡後6ヶ月間に限り、その者の相続人は権利を行使することができる。 (ハ)その他権利行使の条件は、当該定時株主総会及び当社取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みにに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 当社が普通株式につき株式分割、株式併合又は資本の減少等を行うことにより、行使価額の調整を行うことが適切な場合は、当社は合理的な範囲で必要と認める調整を行う。

第156回定時株主総会決議ストックオプション制度

当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。

当該制度は、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、ストックオプションとして新株予約権を無償で発行することを平成21年6月23日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

決議年月日	平成21年6月23日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 12名 当社執行役員 8名 当社理事及び従業員 161名 当社連結子会社の取締役 32名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	555,500株
新株予約権の行使時の払込金額	3,140円(注)
新株予約権の行使期間	平成23年8月1日から平成25年7月31日まで
新株予約権の行使の条件	(イ)新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役、執行役員、理事若しくは正社員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)新株予約権者の死亡後6ヶ月間に限り、その者の相続人は権利を行使することができる。 (ハ)その他権利行使の条件は、当該定時株主総会及び当社取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 当社が普通株式につき株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{株式分割(又は株式併合)の比率}}$$

また、当社が時価を下回る価額で普通株式につき新株式の発行又は自己株式の処分を行う場合(単元未満株主による単元未満株式売渡請求に基づく自己株式の売渡し、普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の行使の場合を除く。)は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

上記の算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社が保有する普通株式に係る自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に、「新規発行前の株価」を「自己株式処分前の株価」にそれぞれ読み替える。

第157回定時株主総会決議ストックオプション制度

当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。

当該制度は、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、ストックオプションとして新株予約権を無償で発行することを平成22年6月22日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

決議年月日	平成22年6月22日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 11名 当社執行役員 8名 当社理事及び従業員 172名 当社連結子会社の取締役 32名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	566,000株
新株予約権の行使時の払込金額	2,567円(注)
新株予約権の行使期間	平成24年8月1日から平成26年7月31日まで
新株予約権の行使の条件	(イ)新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役、執行役員、理事若しくは正社員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)新株予約権者の死亡後6ヶ月間に限り、その者の相続人は権利を行使することができる。 (ハ)その他権利行使の条件は、当該定時株主総会及び当社取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 当社が普通株式につき株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{株式分割(又は株式併合)の比率}}$$

また、当社が時価を下回る価額で普通株式につき新株式の発行又は自己株式の処分を行う場合(単元未満株主による単元未満株式売渡請求に基づく自己株式の売渡し、普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の行使の場合を除く。)は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

上記の算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社が保有する普通株式に係る自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に、「新規発行前の株価」を「自己株式処分前の株価」にそれぞれ読み替える。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	987	2,076,760
当期間における取得自己株式	110	204,930

(注) 単元未満株式の買取請求による取得であります。なお、当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からの有価証券報告書提出日までの取得自己株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	98	154,517		
保有自己株式数	7,769,826			

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡請求による処分株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は株主のみなさまに対する利益還元につきましては、単独業績、配当性向、ROE（自己資本利益率）に加え、企業グループとしての連結業績等の経営指標を総合的に勘案して、長期にわたる安定的な経営基盤の確立と業績の向上による安定した配当の継続を基本方針としております。

この方針に基づき、連結配当性向30%を中長期的な目標としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、取締役会であります。

内部留保金の使途につきましては、企業価値の増大を図ることを目的として、中長期的な事業拡大のため、研究開発・製造設備等に戦略的に投資し、長期的な競争力の強化を目指してまいります。

当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる旨を定款に定めております。また、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当期末配当金につきましては、平成24年5月18日の取締役会決議により、1株につき15円としております。これにより、平成23年11月に実施しました中間配当金（1株につき15円）を含めました当事業年度の年間株式配当金は、前事業年度に比べ1株につき10円減配の30円となりました。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成23年10月27日 取締役会決議	2,146	15.00
平成24年5月18日 取締役会決議	2,146	15.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第155期	第156期	第157期	第158期	第159期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	10,570	5,030	3,500	3,635	2,813
最低(円)	3,720	1,222	2,320	1,901	1,456

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	1,982	1,815	1,851	1,675	1,997	2,170
最低(円)	1,501	1,599	1,485	1,456	1,566	1,852

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役	会長	岩 田 義 文	昭和14年 5 月 4 日生	昭和37年 3 月 当社入社 昭和60年 6 月 当社取締役 平成元年 6 月 当社常務取締役 平成 5 年 6 月 当社専務取締役 平成 9 年 8 月 当社代表取締役副社長 平成11年 6 月 当社代表取締役社長 平成19年 4 月 当社代表取締役会長(現) 平成21年 6 月 東京エレクトロニクス(株)取締役(現) 平成24年 1 月 当社セラミック事業・エネルギー・環境本部担当(現)	(注) 3	122
代表取締役	社長	竹 中 裕 紀	昭和26年 1 月 1 日生	昭和48年 4 月 当社入社 平成 9 年 6 月 当社取締役 平成13年 6 月 当社常務取締役 平成17年 6 月 当社取締役専務執行役員 平成19年 4 月 当社代表取締役社長(現) 平成24年 1 月 当社技術開発本部、生産技術本部担当(現)	(注) 3	55
代表取締役	副社長	國 嶋 眞 文	昭和24年 4 月 6 日生	昭和48年 4 月 当社入社 平成11年 6 月 当社取締役 平成13年 6 月 当社常務取締役 平成17年 6 月 当社取締役専務執行役員 平成19年 4 月 当社取締役副社長 平成20年 6 月 当社代表取締役副社長(現) 平成22年 4 月 当社電子事業・技術開発本部担当 平成23年 4 月 当社生産技術本部担当 平成24年 1 月 当社品質保証統括、生産推進本部担当(現)	(注) 3	49
代表取締役	副社長	小 高 博 信	昭和25年11月 7 日生	昭和49年 4 月 当社入社 平成13年 6 月 当社取締役 平成17年 6 月 当社取締役常務執行役員 平成19年 4 月 当社取締役専務執行役員 平成23年 4 月 当社取締役副社長 平成24年 1 月 当社代表取締役副社長(現) 平成24年 1 月 当社電子事業担当、PWB事業本部長(現)	(注) 3	35
取締役	専務執行役員	馬 淵 勝 美	昭和26年 4 月 18 日生	昭和50年 7 月 当社入社 平成15年 6 月 当社取締役 平成17年 6 月 当社執行役員 平成18年 6 月 当社常務執行役員 平成19年 4 月 当社取締役常務執行役員 平成21年 4 月 イビデンフィリピン株式会社代表取締役社長(現) 平成22年 4 月 当社取締役専務執行役員(現) 平成24年 1 月 当社PKG事業本部長(現)	(注) 3	28
取締役	専務執行役員	栗 田 茂 康	昭和25年10月 9 日生	昭和49年 4 月 当社入社 平成17年 6 月 当社執行役員 平成20年 4 月 当社常務執行役員 平成20年 4 月 当社総務・人事本部長 平成24年 4 月 当社専務執行役員 平成24年 4 月 当社経営企画本部長(現) 平成24年 6 月 当社取締役専務執行役員(現)	(注) 3	17
取締役	常務執行役員	松 尾 敏 明	昭和24年 6 月 27 日生	昭和48年 4 月 当社入社 平成13年 6 月 当社取締役 平成15年 3 月 (株)ティーアイピーシー代表取締役社長(現) 平成17年 6 月 当社取締役常務執行役員(現)	(注) 3	34

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	常務執行役員	阪下 敬一	昭和31年4月21日生	昭和56年4月 当社入社 平成15年6月 当社理事 平成17年6月 当社執行役員 平成19年4月 当社常務執行役員 平成19年6月 当社取締役常務執行役員(現) 平成23年4月 当社生産推進本部長(現)	(注)3	17
取締役	常務執行役員	桑山 洋一	昭和33年5月30日生	昭和58年4月 当社入社 平成18年4月 当社セラミック事業グループ車載事業本部DPF第2事業部長 平成19年4月 当社理事 平成20年4月 当社執行役員 平成23年4月 当社DPF事業本部長(現) 平成24年4月 当社常務執行役員 平成24年6月 当社取締役常務執行役員(現)	(注)3	11
取締役	執行役員	伊藤 宗太郎	昭和37年1月16日生	昭和61年4月 当社入社 平成20年4月 当社執行役員 平成21年4月 当社電子回路事業本部長 平成23年6月 当社取締役執行役員(現) 平成24年1月 当社PWB事業本部副本部長(現)	(注)3	8
取締役		豊田 芳年	大正14年8月29日生	昭和53年2月 (株)豊田自動織機製作所(現 (株)豊田自動織機)代表取締役社長 昭和59年6月 当社取締役(現) 平成5年6月 (株)豊田自動織機製作所(現 (株)豊田自動織機)代表取締役会長 平成11年6月 同社取締役名誉会長 平成21年6月 同社名誉会長(現)	(注)3	15
取締役		米澤 敏夫	昭和19年7月5日生	平成12年6月 (株)東芝常務 平成15年3月 東芝松下ディスプレイテクノロジー(株)取締役社長 平成17年6月 (株)東芝執行役専務 平成18年6月 同社取締役、代表執行役副社長 平成20年6月 当社取締役(現) 平成20年6月 東芝テック(株)取締役 平成20年6月 (財)東芝国際交流財団(現(公財)東芝国際交流財団)審査委員長(現)	(注)3	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		平 林 佳 郎	昭和23年11月19日生	昭和47年4月 平成13年6月 平成15年6月 平成17年6月 平成19年4月 平成24年6月	当社入社 当社取締役 当社常務取締役 当社取締役常務執行役員 当社取締役専務執行役員 当社監査役(現)	(注)6	42
常勤監査役		川 瀬 豊	昭和23年11月18日生	昭和46年4月 平成3年6月 平成5年4月 平成11年4月 平成17年6月	当社入社 当社財務部長 当社社長室関連事業部長 当社監査室長 当社監査役(現)	(注)4	37
監査役		栗 林 忠 男	昭和12年3月29日生	昭和52年4月 平成10年6月 平成11年10月 平成14年4月	慶応義塾大学法学部教授 当社監査役(現) 慶應義塾大学法学部長、同大学大学院法学研究科委員長 慶應義塾大学名誉教授(現)	(注)6	
監査役		熊 谷 安 弘	昭和15年8月7日生	昭和46年10月 昭和51年1月 平成15年1月 平成15年6月	税理士登録 熊谷安弘税理士事務所(現 税理士法人熊谷事務所)開業 税理士法人熊谷事務所代表社員(現) 当社監査役(現)	(注)5	
監査役		塩 田 薫 範	平成17年5月13日	昭和41年4月 昭和50年5月 平成2年6月 平成10年6月 平成12年6月 平成22年8月 平成24年6月	大蔵省入省 外務省在ベルギー大使館兼EC代表部書記官 国税庁福岡国税局長 公正取引委員会事務総局事務総長 商工組合中央金庫(現株商工組合中央金庫)副理事長 第一東京弁護士会登録、田辺総合法律事務所所属(現) 当社監査役(現)	(注)6	
計							477

- (注) 1 取締役 豊田芳年及び米澤敏夫の両氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2 監査役 栗林忠男、熊谷安弘及び塩田薫範の各氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3 平成24年6月20日開催の第159回定時株主総会の終結の時から1年間
4 平成21年6月23日開催の第156回定時株主総会の終結の時から4年間
5 平成23年6月22日開催の第158回定時株主総会の終結の時から4年間
6 平成24年6月20日開催の第159回定時株主総会の終結の時から4年間

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要

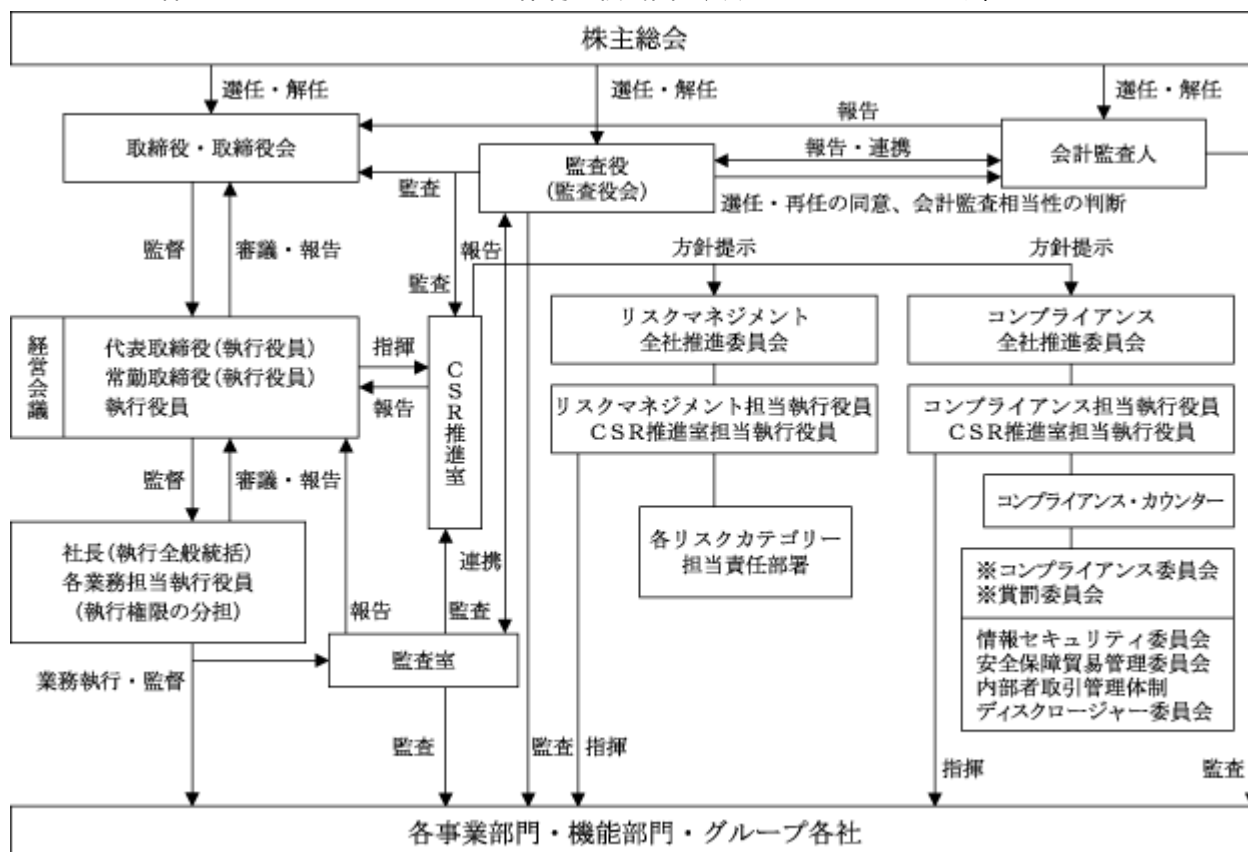
当社の取締役会は、公正で透明度の高い経営を実現するために、2名の社外取締役に加わっていただいております。経営の助言を受けております。また、取締役の経営責任を明確にし、経営体質の強化を図るとともに、経営環境の変化に対応して最適な経営体質を機動的に構築するため、取締役の任期を1年、取締役の員数は18名以内としております。さらに、スピーディな経営の意思決定及び業務執行の一層の迅速化を図るため、執行役員制度を導入しております。

当社は、監査役及び監査役会設置会社制度を採用しております。

上記の企業統治体制に加え、当社は、当社グループの同体制をさらに強固なものとするため、経営会議を設置しております。経営会議は、取締役会に付議する議案の事前審議及び当社権限規程による決裁機能を持ち、代表取締役、取締役、執行役員、理事等の経営及び業務執行責任者に常勤監査役を加えた構成としており、年度・月次予算の進捗管理や経営課題の諸案件に係る重要案件に係る審議及び意思決定を行っております。

また、当社は、当社グループにおける業務の適正を確保するため、企業集団全体のコンプライアンス及びリスクマネジメント活動の推進について、子会社等の経営者に対し、当社と同様の体制構築を提案し、「グループ情報交換会」において、これら上記推進活動の状況を確認し、また各社の経営状況や利益計画の進捗を把握しております。

当社コーポレート・ガバナンス体制の模式図は、次のとおりであります。



※は関係案件発生時に随時開設されるもの

ロ 企業統治の体制を採用する理由

当社グループの企業統治は、現行の監査役制度を通じて、効果的・効率的に実施されています。当社グループの事業規模及び組織構造を踏まえた場合、現行の体制は、監査の独立性と企業統治の効率性を達成する上で、最適であると考えております。

ハ 内部統制システム及びリスク管理体制の整備状況

当社グループの内部統制システムは、コーポレート・ガバナンスを経営の重要課題として認識し、コンプライアンス及びリスクマネジメント推進活動をグループ全社において積極的に展開し、監視機能の強化を図っております。コンプライアンス及びリスクマネジメントの推進活動は、各推進担当執行役員が定期的にそれらの整備状況を取締役会及び経営会議に報告するとともに、モニタリング及び見直しを適宜行うことにより、より適正かつ強固な体制の整備を行っております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社の監査役は5名で、そのうち3名は当社と利害関係のない社外監査役であります。また5名の監査役のうち2名は、当社財務・経理部門に長年在籍した者又は税理士の資格を有する者であるなど財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

監査役は、取締役会や経営会議など主要な会議に出席し、取締役の職務執行の監査を、さらに常勤監査役は、内部監査部門である監査室及び会計監査人と連携し、法令及び諸規定に基づく監査を、当社及びグループ会社に対して実施しております。

なお、役職員等は、監査役会の定める監査役会規則及び監査役監査規則に従い、各監査役の要請に応じて必要な報告及び情報提供を行っております。

また、当社は、内部監査を執行する組織として、監査室(在籍者6名)を設置しております。監査室は、内部監査の結果を監査役に報告し、当社グループの監査体制の実効性を高めております。

社外取締役及び社外監査役

上記のとおり、当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名の体制となっております。当社は、これら社外取締役及び社外監査役に対し、適正な企業統治への寄与及び企業行動規範への有効な助言を期待しております。また、社外取締役及び社外監査役の独立性確保の要件につきましては、当社独自の基準または方針は設けておりませんが、一般株主と利益相反が生じる恐れのない独立役員として、社外取締役及び社外監査役の全員を、選任しております。

社外取締役豊田芳年氏は、株式会社豊田自動織機の名誉会長であります。当該会社と当社間に特別な関係はありません。また社外取締役米澤敏夫氏は、公益財団法人東芝国際交流財団の審査委員長であります。当該財団と当社間に特別な関係はありません。

また、社外監査役栗林忠男氏は慶應義塾大学名誉教授であります。当該大学と当社間に特別な関係はありません。社外監査役熊谷安弘氏は税理士法人熊谷事務所の代表社員及び株式会社テーオーシーの社外監査役であります。当該事務所及び当該会社と当社間に特別な関係はありません。また社外取締役塩田薫範氏は田辺総合法律事務所のパートナーであります。当該事務所と当社間に特別な関係はありません。

社外取締役は、当社取締役会において、豊富な経営経験に基づいた発言を行い、当社グループのガバナンスを強化するための重要な助言を行っております。また、社外監査役は、当社取締役会及び監査役会において、学識経験又は税務・財務の専門的見地に基づいた発言を行うとともに、取締役に対し、客観・公平性を有する助言を行っております。これにより、上記の独立性を有する社外取締役及び社外監査役は、当社が期待するその職責を全うしていると判断しております。

責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役及び社外監査役と会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

社外取締役とは、その任務を怠ったことによって生じた損害賠償責任については、金2,000万円又は会社法第425条第1項が定める最低責任限度額のいずれか高い額を限度とする責任を負担すると規定し、上記の責任限定が認められるのは、社外取締役がその責任の原因となった職務を行うにつき善意かつ重大な過失がないときに限るとしております。

また、社外監査役とは、その任務を怠ったことによって生じた損害賠償責任については、金1,800万円又は会社法第425条第1項が定める最低責任限度額のいずれか高い額を限度とする責任を負担すると規定し、上記の責任限定が認められるのは社外監査役がその責任の原因となった職務を行うにつき善意かつ重大な過失がないときに限るとしております。

会計監査の状況

会計監査については新日本有限責任監査法人と監査契約を締結しており、指定有限責任社員・業務執行社員である公認会計士平野晃氏、大橋正明氏及び関口俊克氏が業務を執行しております。

また、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士11名、その他8名であります。

役員報酬等

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	507	342	44	121		10
監査役 (社外監査役を除く。)	56	56				2
社外役員	44	38	6			4

- (注) 1 取締役の報酬限度額は、平成19年6月22日開催の第154回定時株主総会において月額45百万円以内(うち社外取締役分3百万円以内、その他の取締役分42百万円以内、なお、ストックオプションによる報酬は別枠とし、使用人兼務取締役の使用人としての報酬は含まれておりません。)と決議いただいております。
- 2 上記1の確定金銭報酬及びストック・オプションによる報酬とは別に、平成23年6月22日開催の第158回定時株主総会において、社外取締役を除く取締役に対し、賞与総額として、各事業年度の連結当期純利益の0.5%と当該事業年度の年間配当金総額の1.6%との合計額(ただし年額5億円を上限とし、計算の結果生じる百万円未満の数字については、これを切り捨てる。)を支給することを決議いただいております。
- 3 監査役の報酬限度額は、平成10年6月24日開催の第145回定時株主総会において月額6百万円以内と決議いただいております。
- 4 上記の取締役賞与支給額121百万円につきましては、平成24年5月18日開催の取締役会において支給することを決議いたしました。
- 5 上記支給額のほか、当社の子会社の取締役を兼務している当社取締役2名に対し、当該子会社2社が当期に係る月額報酬として45百万円を支払っております。

□ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株主総会決議事項を取締役会で決議できるとした事項

当社は、会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、会社の機動性を確保するため、剰余金の配当等につき取締役会の決議により決定する旨及び市場取引等により自己株式の取得につき取締役会の決議によりこれを行うことができる旨を定款にて定めております。また、会社法第454条第5項の規定により、取締役会決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行うことができる旨を定款にて定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款にて定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行うことができる旨を定款にて定めております。

株式の保有状況

イ 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

59銘柄 22,350百万円

□ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)豊田自動織機	2,763,000	6,951	取引関係の強化
スズキ(株)	1,199,000	2,228	取引関係の強化
(株)デンソー	590,000	1,628	取引関係の強化
三井不動産(株)	1,086,000	1,491	取引関係の強化
(株)十六銀行	4,005,939	1,093	取引関係の強化
(株)大垣共立銀行	3,691,500	1,004	取引関係の強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	357,524	924	取引関係の強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	2,332,030	895	取引関係の強化
東邦瓦斯(株)	1,567,362	672	取引関係の強化
三菱商事(株)	254,807	588	取引関係の強化
シーケーディー(株)	689,000	573	取引関係の強化
J S R(株)	341,000	569	取引関係の強化
三井化学(株)	1,589,254	467	取引関係の強化
(株)カネカ	703,921	407	取引関係の強化
三井物産(株)	269,695	402	取引関係の強化
M S & A Dホールディングス(株)	149,652	283	取引関係の強化
(株)岡村製作所	500,000	234	取引関係の強化
極東証券(株)	277,500	162	取引関係の強化
ブラザー工業(株)	131,600	160	取引関係の強化
日本高純度化学(株)	560	133	取引関係の強化
横河電機(株)	200,000	126	取引関係の強化
大陽日酸(株)	178,844	123	取引関係の強化
中央三井トラスト・ホールディングス(株)	200,000	59	取引関係の強化
サンメッセ(株)	55,000	19	取引関係の強化
セイノーホールディングス(株)	28,154	17	取引関係の強化
本田技研工業(株)	5,066	15	取引関係の強化
帝国通信工業(株)	66,000	12	取引関係の強化
信越化学工業(株)	1,102	4	取引関係の強化
第一生命保険(株)	30	3	取引関係の強化
トヨタ自動車(株)	1,100	3	取引関係の強化

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)豊田自動織機	2,763,000	6,896	取引関係の強化
スズキ(株)	1,199,000	2,370	取引関係の強化
三井不動産(株)	1,086,000	1,719	取引関係の強化
(株)デンソー	590,000	1,631	取引関係の強化
(株)十六銀行	4,005,939	1,141	取引関係の強化
(株)大垣共立銀行	3,691,500	1,100	取引関係の強化
(株)三井住友フィナンシャル グループ	357,524	973	取引関係の強化
(株)三菱UFJフィナンシャル グループ	2,332,030	960	取引関係の強化
東邦瓦斯(株)	1,567,362	764	取引関係の強化
J S R(株)	341,000	568	取引関係の強化
三菱商事(株)	254,807	489	取引関係の強化
シーケーディー(株)	689,000	451	取引関係の強化
三井化学(株)	1,589,254	398	取引関係の強化
三井物産(株)	269,695	365	取引関係の強化
カネカ(株)	703,921	351	取引関係の強化
(株)岡村製作所	500,000	288	取引関係の強化
M S & A Dホールディングス (株)	149,652	254	取引関係の強化
極東証券(株)	277,500	198	取引関係の強化
横河電機(株)	200,000	167	取引関係の強化
ブラザー工業(株)	131,600	147	取引関係の強化
日本高純度化学(株)	560	119	取引関係の強化
大陽日酸(株)	178,844	104	取引関係の強化
三井住友トラスト・ホール ディングス(株)	200,000	52	取引関係の強化
本田技研工業(株)	7,411	23	取引関係の強化
サンメッセ(株)	55,000	19	取引関係の強化
セイノーホールディングス (株)	28,154	16	取引関係の強化
帝国通信工業(株)	66,000	9	取引関係の強化
信越化学工業(株)	1,102	5	取引関係の強化
トヨタ自動車(株)	1,100	3	取引関係の強化
第一生命保険(株)	30	3	取引関係の強化

八 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	65	4	65	3
連結子会社				
計	65	4	65	3

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社であるイビデンエレクトロニクスマレーシア(株)は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているアーンストアンドヤングに対して、監査証明業務に基づく報酬として0百万円を支払っております。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社は、監査公認会計士等に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務である、国際財務報告基準(IFRS)の導入に向けた指導、助言業務などを委託し、その対価を支払っております。

(当連結会計年度)

当社は、監査公認会計士等に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務である、国際財務報告基準(IFRS)の導入に向けた指導、助言業務などを委託し、その対価を支払っております。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日程等を勘案した上で決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

1【連結財務諸表等】
 (1)【連結財務諸表】
 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	66,982	77,960
受取手形及び売掛金	56,348	58,097 ⁵
有価証券	27,317	27,194
商品及び製品	11,726	14,083
仕掛品	8,297	8,327
原材料及び貯蔵品	9,786	13,408
繰延税金資産	3,394	2,107
その他	4,650	10,884
貸倒引当金	427	423
流動資産合計	188,075	211,639
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	66,577	68,107
機械装置及び運搬具（純額）	51,173	58,258
土地	17,813 ⁴	17,904 ⁴
リース資産（純額）	2,703	2,376
建設仮勘定	31,832	27,022
その他（純額）	4,016	4,208
有形固定資産合計	174,116 ²	177,878 ²
無形固定資産		
4,398		5,286
投資その他の資産		
投資有価証券	25,012 ^{1, 3}	25,070 ^{1, 3}
長期貸付金	43	43
繰延税金資産	4,320	3,953
その他	2,057	2,400
貸倒引当金	443	399
投資その他の資産合計	30,990	31,067
固定資産合計	209,505	214,232
資産合計	397,580	425,871

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 47,570	3, 5 50,613
短期借入金	18,385	18,716
未払金	3 19,043	3 13,363
未払法人税等	9,302	858
繰延税金負債	17	23
賞与引当金	3,835	3,623
役員賞与引当金	257	113
設備関係支払手形	6,724	5 3,987
その他	8,846	9,202
流動負債合計	113,982	100,502
固定負債		
社債	-	40,000
長期借入金	5,078	5,021
リース債務	1,384	1,003
再評価に係る繰延税金負債	4 179	4 157
退職給付引当金	766	237
役員退職慰労引当金	711	661
繰延税金負債	2,803	1,837
負ののれん	3	-
その他	1,421	1,548
固定負債合計	12,348	50,468
負債合計	126,331	150,970
純資産の部		
株主資本		
資本金	64,152	64,152
資本剰余金	68,331	68,331
利益剰余金	179,076	184,000
自己株式	30,640	30,641
株主資本合計	280,920	285,842
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,076	2,483
繰延ヘッジ損益	20	27
土地再評価差額金	4 48	4 71
為替換算調整勘定	16,715	18,567
その他の包括利益累計額合計	14,611	16,040
新株予約権	1,376	1,281
少数株主持分	3,563	3,817
純資産合計	271,249	274,901
負債純資産合計	397,580	425,871

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	304,968	300,863
売上原価	222,359	235,867
売上総利益	82,609	64,996
販売費及び一般管理費	^{1, 2} 48,797	^{1, 2} 49,480
営業利益	33,811	15,515
営業外収益		
受取利息	179	331
受取配当金	472	514
負ののれん償却額	79	3
持分法による投資利益	140	-
為替差益	-	189
補助金収入	358	431
その他	679	850
営業外収益合計	1,911	2,320
営業外費用		
支払利息	273	324
設備賃貸費用	15	17
持分法による投資損失	-	303
社債発行費	-	161
為替差損	30	-
休止固定資産減価償却費	898	-
その他	930	771
営業外費用合計	2,147	1,579
経常利益	33,575	16,256
特別利益		
固定資産売却益	³ 20	³ 86
投資有価証券売却益	4	8
補助金収入	128	65
貸倒引当金戻入額	133	-
新株予約権戻入益	341	391
前期損益修正益	0	-
その他	20	18
特別利益合計	650	569
特別損失		
固定資産除却損	⁴ 1,729	⁴ 657
減損損失	⁵ 1,157	⁵ 764
投資有価証券売却損	0	0
投資有価証券評価損	568	14
災害による損失	-	23
前期損益修正損	9	-
その他	387	107
特別損失合計	3,852	1,567
税金等調整前当期純利益	30,373	15,258
法人税、住民税及び事業税	13,857	3,600
法人税等調整額	3,423	738
法人税等合計	10,433	4,338
少数株主損益調整前当期純利益	19,939	10,920
少数株主利益	198	272
当期純利益	19,740	10,647

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	19,939	10,920
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,240	404
繰延ヘッジ損益	22	7
土地再評価差額金	-	22
為替換算調整勘定	5,398	1,851
その他の包括利益合計	6,661	1,431
包括利益	13,278	9,489
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	13,087	9,218
少数株主に係る包括利益	191	270

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	64,152	64,152
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	64,152	64,152
資本剰余金		
当期首残高	68,331	68,331
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	68,331	68,331
利益剰余金		
当期首残高	163,673	179,076
当期変動額		
剰余金の配当	4,327	5,723
当期純利益	19,740	10,647
連結範囲の変動	10	-
当期変動額合計	15,402	4,923
当期末残高	179,076	184,000
自己株式		
当期首残高	24,439	30,640
当期変動額		
自己株式の取得	6,201	2
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	6,200	1
当期末残高	30,640	30,641
株主資本合計		
当期首残高	271,719	280,920
当期変動額		
剰余金の配当	4,327	5,723
当期純利益	19,740	10,647
連結範囲の変動	10	-
自己株式の取得	6,201	2
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	9,201	4,921
当期末残高	280,920	285,842

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	3,308	2,076
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,232	406
当期変動額合計	1,232	406
当期末残高	2,076	2,483
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	1	20
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	22	7
当期変動額合計	22	7
当期末残高	20	27
土地再評価差額金		
当期首残高	48	48
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	22
当期変動額合計	-	22
当期末残高	48	71
為替換算調整勘定		
当期首残高	11,317	16,715
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5,398	1,851
当期変動額合計	5,398	1,851
当期末残高	16,715	18,567
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	7,957	14,611
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,653	1,429
当期変動額合計	6,653	1,429
当期末残高	14,611	16,040
新株予約権		
当期首残高	1,213	1,376
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	162	94
当期変動額合計	162	94
当期末残高	1,376	1,281

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主持分		
当期首残高	3,389	3,563
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	174	254
当期変動額合計	174	254
当期末残高	3,563	3,817
純資産合計		
当期首残高	268,364	271,249
当期変動額		
剰余金の配当	4,327	5,723
当期純利益	19,740	10,647
連結範囲の変動	10	-
自己株式の取得	6,201	2
自己株式の処分	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,316	1,269
当期変動額合計	2,884	3,651
当期末残高	271,249	274,901

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	30,373	15,258
減価償却費	40,697	42,387
減損損失	1,157	764
のれん及び負ののれん償却額	54	3
退職給付引当金の増減額（ は減少）	193	528
賞与引当金の増減額（ は減少）	115	211
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	51	144
貸倒引当金の増減額（ は減少）	104	45
受取利息及び受取配当金	652	514
支払利息	273	324
持分法による投資損益（ は益）	140	303
有形固定資産売却損益（ は益）	20	86
有形固定資産除却損	2,317	751
投資有価証券売却損益（ は益）	4	7
投資有価証券評価損益（ は益）	568	14
売上債権の増減額（ は増加）	4,749	2,689
たな卸資産の増減額（ は増加）	5,258	6,165
仕入債務の増減額（ は減少）	10,138	5,149
未払費用の増減額（ は減少）	427	447
その他	1,313	5,770
小計	76,642	49,234
利息及び配当金の受取額	638	519
利息の支払額	273	324
法人税等の支払額	6,955	12,058
法人税等の還付額	180	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	70,232	37,370
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	45,560	57,574
有形固定資産の売却による収入	130	98
無形固定資産の取得による支出	710	2,067
投資有価証券の取得による支出	47	48
投資有価証券の売却による収入	9	15
短期貸付金の増減額（ は増加）	19	0
長期貸付けによる支出	20	3
長期貸付金の回収による収入	652	235
その他	1,313	53
投資活動によるキャッシュ・フロー	46,841	59,291

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	4,926	550
長期借入れによる収入	30	1
長期借入金の返済による支出	3,206	275
社債の発行による収入	-	40,000
自己株式の取得による支出	6,201	2
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	4,327	5,723
少数株主への配当金の支払額	16	16
リース債務の返済による支出	442	441
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,238	34,092
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,311	570
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	12,841	11,601
現金及び現金同等物の期首残高	80,045	92,886
現金及び現金同等物の期末残高	92,886	104,487

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社

子会社のうち、イビデン電子工業(株)ほか41社を連結の範囲に含めております。連結子会社名は有価証券報告書の「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

当連結会計年度より、イビデンアドバンストパッケージマレーシア(株)、イビデングラファイトコリア(株)、イビデンアジアホールディングス(株)を設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 主要な非連結子会社

非連結子会社は、イビデンフィリピンランドホールディング(株)、サン工機(株)他3社の5社であります。

(3) 非連結子会社について連結の範囲から除いた理由

非連結子会社5社については、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響をおよぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社

(株)ティーアイピーシー

(2) 持分法を適用しない関連会社

中部合同アセチレン(株)

(3) 持分法非適用会社について持分法を適用しない理由

持分法を適用しない非連結子会社5社及び関連会社1社については、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等におよぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないためであります。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、揖斐電電子(上海)有限公司、揖斐電電子(北京)有限公司、揖斐電電子科技(上海)有限公司及び南寧大南食品有限公司の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たり、上記連結子会社につきましては、決算日(3月31日)において仮決算を実施したうえで連結しております。

4 会計処理基準に関する事項

(イ)重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

当社及び国内連結子会社は、主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を、在外連結子会社は、主として先入先出法による低価法を採用しております。

(ロ)重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社は、主として定率法を、また、在外連結子会社は、主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～75年

機械装置及び運搬具 3～22年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(ハ)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

当社及び国内連結子会社は、主として債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

また、在外連結子会社は、主として特定の債権について回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

当社及び国内連結子会社は、主として従業員の賞与に充てるため、支給見込額基準に基づき当連結会計年度に帰属する部分を計上しております。

役員賞与引当金

当社は、主として役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

退職給付引当金

一部の国内連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。

数理計算上の差異は、翌連結会計年度に一括して費用処理することとしております。

役員退職慰労引当金

主要な国内連結子会社は、主として役員の退職に伴い支給する退職慰労金に充てるため、内規に基づく退職慰労金見積額を計上しております。

(ニ)重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(ホ)重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約取引

ヘッジ対象：外貨建債権・債務及び外貨建予定取引

ヘッジ方針

主として当社は、「社内管理規程」に基づき、為替変動リスクについてヘッジしております。なお、主要なリスクである外貨建売掛債権の為替変動リスクに関しては、実需を推定し、ヘッジする方針であります。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約の締結時に、リスク管理方針に従って、外貨建による同一金額で同一期日の為替予約を対応させているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されており、ヘッジに高い有効性があるものと判断しております。

(ヘ)のれんの償却方法及び償却期間

原則として5年間の均等償却を行っております。

(ト)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価格の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(チ)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

重要な繰延資産の処理方法

社債発行費については、支出時に全額費用として処理しております。

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

- 1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	2,250百万円	1,946百万円

- 2 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
	280,102百万円	313,642百万円

- 3 (担保資産)

担保として供しております資産は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券	9百万円	8百万円

担保付債務は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
買掛金	84百万円	94百万円
未払金	16百万円	2百万円

- 4 土地の再評価

(前連結会計年度)

一部の連結子会社(イビデングリーンテック株)は土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しています。

再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第1号に定める地価公示価格に基づいて、時点修正、奥行価格補正等合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日 平成14年3月31日

再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差 302百万円

(当連結会計年度)

一部の連結子会社(イビデングリーンテック株)は土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しています。

再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第1号に定める地価公示価格に基づいて、時点修正、奥行価格補正等合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日 平成14年3月31日

再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差 316百万円

5 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	495百万円
支払手形	- 百万円	1,212百万円
設備関係支払手形	- 百万円	365百万円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
従業員給料手当	9,688百万円	9,015百万円
賞与引当金繰入額	953百万円	771百万円
役員賞与引当金繰入額	257百万円	113百万円
退職給付費用	155百万円	147百万円
役員退職慰労引当金繰入額	90百万円	107百万円
研究開発費	14,553百万円	16,123百万円

2 一般管理費に含まれている研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	14,553百万円	16,123百万円

3 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物及び構築物	0百万円	0百万円
機械装置及び運搬具	17百万円	52百万円
土地	0百万円	- 百万円
建設仮勘定	- 百万円	28百万円
その他(有形固定資産)	3百万円	4百万円

4 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物及び構築物	494百万円	139百万円
機械装置及び運搬具	290百万円	388百万円
建設仮勘定	807百万円	127百万円
その他(有形固定資産)	137百万円	2百万円

5 減損損失

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

場所	種類	用途	金額
岐阜県 大垣市	建物及び構築物	遊休	78百万円
岐阜県 大垣市	機械装置 及び運搬具	遊休	197百万円
岐阜県 大垣市	建設仮勘定	遊休	670百万円
岐阜県 大垣市	その他 (有形固定資産)	遊休	2百万円
中国 北京市	機械装置 及び運搬具	遊休	195百万円
中国 北京市	その他 (有形固定資産)	遊休	14百万円

当社グループはセグメントを基礎として資産をグルーピングしております。グルーピングの単位である各事業においては減損の兆候がありませんでしたが、使用見込のない遊休資産については個々の資産毎に減損の兆候の判定を行いました。これらの遊休資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(1,157百万円)として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、備忘価額により評価しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

場所	種類	用途	金額
岐阜県 大垣市	建物及び構築物	遊休	1百万円
岐阜県 大垣市	機械装置 及び運搬具	遊休	4百万円
岐阜県 大垣市	建設仮勘定	遊休	758百万円
岐阜県 大垣市	その他 (有形固定資産)	遊休	0百万円

当社グループはセグメントを基礎として資産をグルーピングしております。グルーピングの単位である各事業においては減損の兆候がありませんでしたが、使用見込のない遊休資産については個々の資産毎に減損の兆候の判定を行いました。これらの遊休資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(764百万円)として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、備忘価額により評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金	
当期発生額	329百万円
組替調整額	5百万円
税効果調整前	335百万円
税効果額	68百万円
その他有価証券評価差額金	404百万円
繰延ヘッジ損益	
当期発生額	44百万円
組替調整額	34百万円
税効果調整前	10百万円
税効果額	2百万円
繰延ヘッジ損益	7百万円
土地再評価差額金	
当期発生額	- 百万円
組替調整額	- 百万円
税効果調整前	- 百万円
税効果額	22百万円
土地再評価差額金	22百万円
為替換算調整勘定	
当期発生額	1,851百万円
その他の包括利益合計	1,431百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	150,860,557			150,860,557

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	5,422,678	2,346,331	72	7,768,937

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

当社子会社吸収分割に反対する株主からの

買取りによる増加

2,344,400株

単元未満株式の買取りによる増加

1,931株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による減少

72株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権						1,376
合計							1,376

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年5月20日取締役会	普通株式	2,181	15.00	平成22年3月31日	平成22年6月7日
平成22年11月2日取締役会	普通株式	2,146	15.00	平成22年9月30日	平成22年11月22日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月18日取締役会	普通株式	利益剰余金	3,577	25.00	平成23年3月31日	平成23年6月6日

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	150,860,557			150,860,557

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	7,768,937	987	98	7,769,826

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 987株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による減少 98株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)			当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権					1,281
合計						1,281

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月18日取締役会	普通株式	3,577	25.00	平成23年3月31日	平成23年6月6日
平成23年10月27日取締役会	普通株式	2,146	15.00	平成23年9月30日	平成23年11月21日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年5月18日取締役会	普通株式	利益剰余金	2,146	15.00	平成24年3月31日	平成24年6月4日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	66,982百万円	77,960百万円
預金期間が3か月を超える 定期預金	1,413百万円	666百万円
有価証券勘定	27,317百万円	27,194百万円
現金及び現金同等物	92,886百万円	104,487百万円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、セラミック事業における工場(建物及び構築物)及び電子事業における生産設備(機械装置及び運搬具)であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

(2) リース資産の償却方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

2 オペレーティング・リース取引(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	104百万円	57百万円
1年超	11百万円	11百万円
合計	115百万円	69百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金を主に社債発行や銀行借入により調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に業務上の関係を有する株式及び一時的な余資運用の債券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払金並びに設備関係支払手形は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されております。

前連結会計年度では、短期借入金は、主として運転資金の確保を目的とした資金調達であり、長期借入金は主に設備投資を目的とした資金調達であります。当連結会計年度では、短期借入金は、主として運転資金の確保を目的とした資金調達であり、社債及び長期借入金は主に設備投資を目的とした資金調達であります。このうち借入金の一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方法、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項(ホ)重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業債権については、社内ガイドラインに従い、取引先の定期的な調査及び分析、未回収額の迅速な原因分析を行い、信用リスクの軽減を図っております。連結子会社につきましても当社に準じた管理を行っております。

満期保有債券は、信用リスクの僅少な格付けの高い債券のみを対象として取得しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。なお、為替相場の状況により、輸出に係る予定取引により確実に発生すると見込まれる外貨建営業債権に対する先物為替予約を行っております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に株価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた規程に従い、担当部署が決裁当事者の承認を得て行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格のない場合の一定条件の変動要因をもとに合理的に算定した価格も含まれております。このため当該価格は条件の変更等によって変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引の契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注)2を参照ください。)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	66,982	66,982	
(2) 受取手形及び売掛金	56,348	56,348	
(3) 有価証券及び投資有価証券	49,242	49,242	
(4) 長期貸付金	44	42	2
資産計	172,617	172,615	2
(1) 支払手形及び買掛金	47,570	47,570	
(2) 短期借入金	18,105	18,105	
(3) 未払金	19,043	19,043	
(4) 設備関係支払手形	6,724	6,724	
(5) 長期借入金	5,358	5,314	43
負債計	96,801	96,758	43
デリバティブ取引(*)	(265)	(265)	

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	77,960	77,960	
(2) 受取手形及び売掛金	58,097	58,097	
(3) 有価証券及び投資有価証券	49,488	49,488	
(4) 長期貸付金	43	40	2
資産計	185,588	185,586	2
(1) 支払手形及び買掛金	50,613	50,613	
(2) 短期借入金	18,655	18,655	
(3) 未払金	13,363	13,363	
(4) 設備関係支払手形	3,987	3,987	
(5) 社債	40,000	40,044	44
(6) 長期借入金	5,082	5,068	14
負債計	131,701	131,732	30
デリバティブ取引(*)	(696)	(696)	

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格等によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

(4) 長期貸付金

長期貸付金の時価については、一定の期間ごとに分類し、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等を適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値におよび算定する方法によっております。なお、1年内回収予定長期貸付金は、長期貸付金に含めて時価を表示しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金、並びに (4) 設備関係支払手形

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 社債

社債の時価については、市場価格によっております。

(6) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、1年内返済予定長期借入金は、長期借入金に含めて時価を表示しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成23年3月31日	平成24年3月31日
非上場株式	3,087	2,776

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には、含めておりません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	66,982			
受取手形及び売掛金	56,348			
長期貸付金	1	22	21	
合計	123,331	22	21	

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	77,960			
受取手形及び売掛金	58,097			
長期貸付金	4	17	21	
合計	136,061	17	21	

4 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
長期借入金	280	5,057	20	
合計	280	5,057	20	

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
長期借入金	82	5,000		
合計	82	5,000		

5 社債の連結決算日後の返済予定額

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
社債		40,000		
合計		40,000		

[次へ](#)

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	12,710	7,809	4,900
債券			
その他	10	7	2
小計	12,721	7,817	4,903
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	9,194	10,358	1,163
債券			
その他	27,326	27,327	0
小計	36,521	37,686	1,164
合計	49,242	45,503	3,739

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額3,087百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	14,193	8,998	5,194
債券			
その他	10	7	2
小計	14,204	9,006	5,197
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	8,080	9,202	1,121
債券			
その他	27,202	27,203	0
小計	35,283	36,406	1,122
合計	49,488	45,412	4,075

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額2,776百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	9	4	0
債券			
その他	182,999		
合計	183,008	4	0

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	14	8	0
債券			
その他	95,143		0
合計	95,158	8	0

3 減損処理を行った有価証券

有価証券の減損処理にあたっては、期末日時点の時価が取得原価の50%以上下落した場合及び同30%以上50%未満の下落率の場合には、個別の時価の回復可能性を判断し、必要と認められた額について減損処理を行っております。

前連結会計年度における減損処理額は、その他有価証券の株式について568百万円減損処理を行っております。

当連結会計年度における減損処理額は、その他有価証券の株式について14百万円減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

種類	契約額等 (百万円)	契約額のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
為替予約取引 売建				
米ドル	255		6	6
ユーロ	6,388		237	237
合計	6,644		231	231

(注) 為替予約取引の時価は、先物為替相場によっております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	契約額等 (百万円)	契約額のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
為替予約取引 売建				
米ドル	7,292		246	246
ユーロ	6,036		405	405
合計	13,329		651	651

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 売建 ユーロ	売掛金	1,779		34
	合計		1,779		34

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 売建 ユーロ	売掛金	972		44
	合計		972		44

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

一部の国内連結子会社は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。

なお、一部の国内連結子会社は、確定拠出年金及び前払い給与制度に移行しております。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付債務(百万円)	1,272	237
(2) 年金資産(百万円)	505	
(3) 未積立退職給付債務((1) + (2))(百万円)	767	237
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	1	
(5) 連結貸借対照表計上額純額((3) + (4))(百万円)	766	237
(6) 退職給付引当金(百万円)	766 (注)	237 (注)

(注) 一部の国内連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(1) 勤務費用(注) 1 (百万円)	103	58
(2) 利息費用(百万円)	11	8
(3) 期待運用収益(百万円)	3	2
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	4	0
(5) 退職給付費用(百万円)	107	65
(6) 確定拠出年金制度への移行に伴う損益(百万円)	118	0
(7) その他(注) 2 (百万円)	1,386	1,907
合計	1,611	1,972

(注) 1 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「勤務費用」に計上しております。

2 その他は、確定拠出年金への掛金額であります。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付見込額の期間配分方法

適格退職年金制度.....勤務期間を基準とする方法

退職一時金制度.....勤務期間を基準とする方法

割引率

前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
2.0%	2.0%

期待運用収益

前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
1.0%	1.0%

数理計算上の差異の処理年数

発生時の翌連結会計年度に一括費用処理

(ストック・オプション等関係)

1. 当連結会計年度における費用計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
売上原価の株式報酬費用	26百万円	17百万円
販売費及び一般管理費の株式報酬費用	478百万円	278百万円

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
新株予約権戻入益	341百万円	391百万円

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成19年 ストック・オプション (インセンティブ型)	平成19年 ストック・オプション (報酬型)
付与対象者の区分及び人数	当社執行役員 6名 当社理事 9名 当社従業員 136名 当社連結子会社の取締役 26名 計 177名	当社取締役 14名
株式の種類及び付与数	普通株式 193,000株	普通株式 56,500株
付与日	平成19年8月17日	平成19年8月17日
権利確定条件	(イ)新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役、執行役員、理事若しくは正社員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)その他権利行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	(イ)新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)その他権利行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	平成19年8月1日から 平成21年7月31日まで	平成19年8月1日から 平成21年7月31日まで
権利行使期間	平成21年8月1日から 平成23年7月31日まで	平成21年8月1日から 平成23年7月31日まで

	平成20年 ストック・オプション (インセンティブ型)	平成20年 ストック・オプション (報酬型)
付与対象者の区分及び人数	当社執行役員 9名 当社理事 12名 当社従業員 152名 当社連結子会社の取締役 30名 計 203名	当社取締役 13名
株式の種類及び付与数	普通株式 345,000株	普通株式 78,000株
付与日	平成20年8月19日	平成20年8月19日
権利確定条件	(イ)新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役、執行役員、理事若しくは正社員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)その他権利行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	(イ)新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役又は執行役員の地位を喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)その他権利行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	平成20年8月1日から 平成22年7月31日まで	平成20年8月1日から 平成22年7月31日まで
権利行使期間	平成22年8月1日から 平成24年7月31日まで	平成22年8月1日から 平成24年7月31日まで

	平成21年 ストック・オプション	平成22年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 12名 当社執行役員 8名 当社理事 11名 当社従業員 150名 当社連結子会社の取締役 32名 計 213名	当社取締役 11名 当社執行役員 8名 当社理事 10名 当社従業員 162名 当社連結子会社の取締役 32名 計 223名
株式の種類及び付与数	普通株式 555,500株	普通株式 566,000株
付与日	平成21年8月10日	平成22年8月11日
権利確定条件	(イ)新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役、執行役員、理事若しくは正社員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)その他権利行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	(イ)新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社及び当社連結子会社の取締役、執行役員、理事若しくは正社員の地位をいずれも喪失した後も6ヶ月間に限り、権利を行使することができる。 (ロ)その他権利行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	平成21年8月1日から 平成23年7月31日まで	平成22年8月1日から 平成24年7月31日まで
権利行使期間	平成23年8月1日から 平成25年7月31日まで	平成24年8月1日から 平成26年7月31日まで

(2) ストック・オプションの規模及び変動状況

ストック・オプションの数

	平成19年 ストック・オプション (インセンティブ型)	平成19年 ストック・オプション (報酬型)	平成20年 ストック・オプション (インセンティブ型)
権利確定前 (株)			
期首			
付与			
失効			
権利確定			
未確定残			
権利確定後 (株)			
期首	165,500	39,000	314,000
権利確定			
権利行使			
失効	165,500	39,000	19,500
未行使残			294,500

	平成20年 ストック・オプション (インセンティブ型)	平成21年 ストック・オプション	平成22年 ストック・オプション
権利確定前 (株)			
期首		526,000	564,000
付与			
失効		5,500	19,500
権利確定		520,500	
未確定残			544,500
権利確定後 (株)			
期首	62,000		
権利確定		520,500	
権利行使			
失効		23,000	
未行使残	62,000	497,500	

単価情報

	平成19年 ストック・オプション (インセンティブ型)	平成19年 ストック・オプション (報酬型)	平成20年 ストック・オプション (インセンティブ型)
権利行使価格 (円)	8,584	8,584	3,561
行使時平均株価 (円)			
付与日における公正な評価単価(円)	1,656	1,656	1,067

	平成20年 ストック・オプション (報酬型)	平成21年 ストック・オプション	平成22年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	3,561	3,140	2,567
行使時平均株価 (円)			
付与日における公正な評価単価(円)	1,067	1,133	743

4. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

該当事項はありません。

5. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(繰延税金資産)		
減価償却費	3,172百万円	3,496百万円
税務上の繰越欠損金	1,379百万円	837百万円
賞与引当金	1,489百万円	1,342百万円
固定資産売却未実現利益	841百万円	788百万円
有価証券評価損	876百万円	765百万円
棚卸資産評価損	462百万円	422百万円
役員退職慰労引当金	488百万円	426百万円
固定資産減損損失	1,349百万円	578百万円
その他	3,740百万円	2,208百万円
繰延税金資産小計	13,798百万円	10,866百万円
評価性引当額	4,567百万円	3,363百万円
繰延税金資産合計	9,230百万円	7,503百万円
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	81百万円	66百万円
新規連結による土地評価益	740百万円	740百万円
土地再評価差額金	179百万円	157百万円
在外子会社の留保利益に係る 税効果	2,027百万円	1,076百万円
その他有価証券評価差額金	1,488百万円	1,420百万円
繰延税金負債合計	4,517百万円	3,461百万円
繰延税金資産の純額	4,713百万円	4,041百万円

(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	3,394百万円	2,107百万円
固定資産 - 繰延税金資産	4,320百万円	3,953百万円
流動負債 - 繰延税金負債	17百万円	23百万円
固定負債 - 繰延税金負債	2,803百万円	1,837百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率の差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	39.8%	39.8%
在外連結子会社の留保利益に係る 税効果	0.1%	6.2%
在外連結子会社等受取配当金 連結消去による影響額	3.0%	8.4%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	1.0%	2.5%
過年度法人税等	5.3%	0.7%
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	- %	6.0%
在外連結子会社等との税率差異	7.9%	6.7%
税額控除	1.8%	2.8%
評価性引当額の減少	3.9%	7.9%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	2.3%	6.9%
その他	1.1%	1.5%
税効果会計適用後の法人税等 の負担率	34.4%	28.4%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の39.8%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.2%、平成27年4月1日以降のものについては34.8%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が250百万円、繰延ヘッジ損益が1百万円、それぞれ減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が452百万円、その他有価証券評価差額金が203百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の金額に重要性が乏しいため、記載を省略しております

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、電子、セラミック、建材、建設、その他事業を営んでおり、取り扱う製品・サービスによって、当社及び当社の連結子会社を設置し、各々が独立した経営単位として、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、製品・サービスを基礎とした事業別のセグメントから構成されており、「電子」、「セラミック」、「建材」、「建設」の4つを報告セグメントとしております。

「電子」は、プリント配線板、パッケージ基板の製造販売及びプリント配線板パターン設計を行っております。「セラミック」は、環境関連セラミック製品、特殊炭素製品、ファインセラミックス製品、セラミックファイバーの製造販売を行っております。「建材」は、住宅設備機器、メラミン化粧板、化粧板関連加工部材の製造販売を行っております。「建設」は、法面工事・造園工事等の土木工事の設計・施工、各種設備の設計・施工を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一です。セグメント利益の金額は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は第三者間取引価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電子	セラミック	建材	建設	計		
売上高							
外部顧客への売上高	185,056	68,870	19,425	12,067	285,420	19,548	304,968
セグメント間の内部 売上高又は振替高	47	39	6	11,202	11,296	5,778	17,074
計	185,104	68,910	19,431	23,270	296,716	25,326	322,043
セグメント利益又は損失 ()	25,458	6,024	956	1,352	31,879	1,140	33,020
セグメント資産	119,335	66,617	8,744	14,079	208,776	26,842	235,618
その他の項目							
減価償却費	28,298	8,303	391	260	37,254	791	38,045
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	55,180	4,826	212	148	60,367	420	60,788

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、合成樹脂加工業、農畜水産物加工業、石油製品販売業、情報サービス等の各種サービス業を含んでおります。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電子	セラミック	建材	建設	計		
売上高							
外部顧客への売上高	171,258	75,520	20,682	12,421	279,883	20,980	300,863
セグメント間の内部 売上高又は振替高	53	34	24	14,518	14,630	6,608	21,238
計	171,312	75,555	20,706	26,939	294,513	27,589	322,102
セグメント利益又は損失 ()	6,444	6,397	541	1,385	13,685	1,208	14,894
セグメント資産	109,092	69,069	13,527	16,317	208,006	28,545	236,551
その他の項目							
減価償却費	32,899	5,680	338	212	39,130	738	39,869
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	40,607	6,674	90	141	47,513	520	48,034

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、合成樹脂加工業、農畜水産物加工業、石油製品販売業、情報サービス等の各種サービス業を含んでおります。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	296,716	294,513
「その他」の区分の売上高	25,326	27,589
セグメント間取引消去	17,074	21,238
連結財務諸表の売上高	304,968	300,863

(単位：百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	31,879	13,685
「その他」の区分の利益	1,140	1,208
セグメント間取引消去	74	26
全社費用及び利益(注)	865	594
連結財務諸表の営業利益	33,811	15,515

(注) 全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や電力利益であります。

(単位：百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	208,776	208,006
「その他」の区分の資産	26,842	28,545
全社資産（注）	161,961	189,319
連結財務諸表の資産合計	397,580	425,871

（注）全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社での余資運用資金（現金及び有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）及び一般管理部門の資産であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額（注）		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	37,254	39,130	791	738	2,651	2,517	40,697	42,387
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	60,367	47,513	420	520	1,329	1,524	62,117	49,558

（注）有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、報告セグメントに帰属しない研究開発関連設備に対する設備投資額であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	北米	欧州	その他	合計
74,913	130,017	37,767	41,704	20,566	304,968

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	北米	欧州	合計
97,727	57,567	57	18,763	174,116

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Intel Corp.	121,177	電子

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	北米	欧州	その他	合計
87,033	140,815	9,193	42,718	21,103	300,863

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	北米	欧州	合計
92,491	66,144	50	19,192	177,878

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Intel Corp.	99,562	電子

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	全社・消去 (注)	合計
	電子	セラミック	建材	建設	計			
減損損失							1,157	1,157

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない使用見込のない遊休資産に係るものであります。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	全社・消去 (注)	合計
	電子	セラミック	建材	建設	計			
減損損失							764	764

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない使用見込のない遊休資産に係るものであります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	全社・消去 (注)	合計
	電子	セラミック	建材	建設	計			
(のれん)								
当期償却額		25			25			25
当期末残高								
(負ののれん)								
当期償却額							79	79
当期末残高							3	3

(注)「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない「負ののれん」の償却に係るものであります。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	全社・消去 (注)	合計
	電子	セラミック	建材	建設	計			
(負ののれん)								
当期償却額							3	3
当期末残高								

(注)「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない「負ののれん」の償却に係るものであります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

関連当事者取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	(株)ティー アイビージー	愛知県 大府市	3,250	電子関連製 品の開発・ 製造・販売	(所有) 直接40.0	主として当社 の電子関連製 品の開発・製 造・販売 役員の兼任	電子関連製 品の購入	12,705	買掛金 及び未払金	2,258
							ツール及び 原材料の販売等	641	未収入金 及び売掛金	265

(注) 1 取引条件及び取引条件の決定方針等

電子関連製品の購入等について、価格その他の取引条件は、当社と関連を有しない他の当事者と同様の条件によっております。取引条件的に劣ることはありません。

2 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

関連当事者取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	(株)ティー アイビージー	愛知県 大府市	3,250	電子関連製 品の開発・ 製造・販売	(所有) 直接40.0	主として当社 の電子関連製 品の開発・製 造・販売 役員の兼任	電子関連製 品の購入	12,666	買掛金 及び未払金	2,769
							ツール及び 原材料の販売等	1,018	未収入金 及び売掛金	785

(注) 1 取引条件及び取引条件の決定方針等

電子関連製品の購入等について、価格その他の取引条件は、当社と関連を有しない他の当事者と同様の条件によっております。取引条件的に劣ることはありません。

2 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	1,861.11円	1,885.53円
1株当たり当期純利益金額	137.21円	74.41円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	135.63円	73.69円

(注) 算定上の基礎

1 1株当たり純資産額

	前連結会計年度末 (平成23年3月31日)	当連結会計年度末 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	271,249	274,901
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	4,939	5,099
(うち新株予約権)	(1,376)	(1,281)
(うち少数株主持分)	(3,563)	(3,817)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	266,309	266,801
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(千株)	143,091	143,090

2 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	19,740	10,647
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	19,740	10,647
期中平均株式数(千株)	143,874	143,091
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	1,670	1,398
(うち新株予約権)(千株)	(1,670)	(1,398)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株 式の概要		

(重要な後発事象)

1. 株式取得による会社等の買収

当社の連結子会社であるイビデンヨーロッパホールディングス株式会社は、平成24年4月26日付けで、Frauenthal Holding AG. から同社の子会社であるPorzellanfabrik Frauenthal GmbH. の全株式とCERAM Liegenschaftsverwaltung GmbH. の株式の50%を取得することに合意いたしました。

(1) 株式取得の目的

当社グループは、ディーゼル・パーティキュレート・フィルター（DPF）を中心に、自動車排ガス浄化関連製品の製造及び販売を行っているとともに、次世代の排ガス規制対応製品や関連製品の開発による事業拡大に努めております。また、買収対象会社は、排煙浄化装置及び自動車用触媒担体の製造及び販売を行っております。この買収により、当社グループと買収対象会社の有する製造・開発ノウハウを融合させ、世界中の顧客へニーズにあった製品をタイムリーに提供することで、当社の環境関連セラミック事業を補完・強化し、変化に富む市場環境における事業競争力の維持、強化につなげてまいります。

(2) 株式取得の相手方

Frauenthal Holding AG.（オーストリア ウィーン市）

(3) 買収予定会社の名称、事業内容、規模（平成23年12月31日現在）

名称	Porzellanfabrik Frauenthal GmbH.
事業内容	排煙浄化装置及び自動車用触媒担体の製造及び販売
資本金	181千ユーロ
売上高（連結）	73,678千ユーロ

名称	CERAM Liegenschaftsverwaltung GmbH.
事業内容	土地及び建物の管理
資本金	901千ユーロ
売上高（連結）	4,918千ユーロ

(4) 株式の取得時期

平成24年6月末（予定）

(5) 取得価額及び取得後の持分比率

58百万ユーロ

Porzellanfabrik Frauenthal GmbH.	100%
CERAM Liegenschaftsverwaltung GmbH.	50%

(6) 支払資金の調達

自己資金

2. 重要な関連会社の解散

当社は、平成24年6月12日に開催いたしました取締役会におきまして、持分法適用関連会社であります株式会社ティーアイビーシーの解散に同意することを決議いたしました。

(1) 解散の理由

昨今は、パソコン市場の成長が大きく鈍化し、当社が製造しております半導体パッケージ基板の業界においても、企業間の競争が激化しておりますので、平成24年12月をめぐりに製品供給を停止したのち、解散いたします。

(2) 解散する持分法適用関連会社の概要（平成24年3月31日現在）

名称	株式会社 ティーアイピーシー
事業内容	半導体パッケージ基板の製造
当社出社比率	当社40%
資産総額	6,157百万円（うち有形固定資産2,036百万円）
負債総額	3,558百万円

(3) 解散時期

平成25年1月（予定）

(4) 業績に与える影響

業績に与える影響については、現在精査中であります。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
イビデン(株)	第5回無担保社債	平成23年 9月20日		25,000	年 0.358	なし	平成26年 9月19日
イビデン(株)	第6回無担保社債	平成23年 9月20日		15,000	年 0.495	なし	平成28年 9月20日
合計				40,000			

(注) 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額は次のとおりであります

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
		25,000		15,000

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	18,105	18,655	0.60	
1年以内に返済予定の長期借入金	280	61	2.21	
1年以内に返済予定のリース債務	485	270		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	5,078	5,021	1.87	平成25年4月～ 平成29年3月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	1,384	1,003		平成25年4月～ 平成31年1月
その他有利子負債				
合計	25,332	25,011		

- (注) 1 「平均利率」につきましては、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,021	-	3,000	-
リース債務	423	158	190	47

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	68,250	140,043	214,737	300,863
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,991	2,787	6,417	15,258
四半期(当期)純利益 (百万円)	1,398	685	1,758	10,647
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	9.77	4.79	12.29	74.41

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純 利益金額又は四半期 純損失 () (円)	9.77	4.98	7.50	62.12

2【財務諸表等】
 (1)【財務諸表】
 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,567	32,917
受取手形	1 780	1, 3 1,251
売掛金	1 35,458	1 32,874
有価証券	27,317	27,194
商品及び製品	8,005	8,132
仕掛品	5,050	4,655
原材料及び貯蔵品	3,125	3,606
前払費用	339	284
繰延税金資産	2,470	1,265
短期貸付金	1 1,949	1 16,873
未収入金	1 7,267	1 9,410
未収還付法人税等	-	3,806
その他	398	648
貸倒引当金	14	12
流動資産合計	122,717	142,911
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	29,337	32,612
構築物（純額）	8,756	8,429
機械及び装置（純額）	19,045	19,027
車両運搬具（純額）	66	58
工具、器具及び備品（純額）	2,270	1,925
土地	10,889	10,994
リース資産（純額）	1,182	994
建設仮勘定	14,849	7,997
有形固定資産合計	2 86,399	2 82,039
無形固定資産		
特許権	9	6
借地権	657	656
ソフトウェア	1,265	752
リース資産	2	1
無形固定資産合計	1,935	1,416
投資その他の資産		
投資有価証券	22,013	22,350
関係会社株式	41,337	53,844
関係会社長期貸付金	27,270	28,047
破産更生債権等	52	52
長期前払費用	723	632
繰延税金資産	2,236	1,876
その他	247	638
貸倒引当金	67	68
投資その他の資産合計	93,812	107,372
固定資産合計	182,147	190,829
資産合計	304,865	333,740

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	7,319	3 6,739
買掛金	1 23,761	1 26,028
短期借入金	15,000	15,000
リース債務	214	214
未払金	1 14,508	1 10,287
未払費用	2,139	2,135
未払法人税等	7,914	-
預り金	1 13,688	1 13,630
賞与引当金	2,241	2,090
役員賞与引当金	114	113
設備関係支払手形	6,647	3 3,921
その他	556	935
流動負債合計	94,105	81,094
固定負債		
社債	-	40,000
長期借入金	5,020	5,021
リース債務	971	782
長期未払金	539	539
資産除去債務	151	151
固定負債合計	6,682	46,494
負債合計	100,787	127,588
純資産の部		
株主資本		
資本金	64,152	64,152
資本剰余金		
資本準備金	64,579	64,579
その他資本剰余金	2,075	2,074
資本剰余金合計	66,655	66,654
利益剰余金		
利益準備金	3,548	3,548
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	112	113
別途積立金	8,600	8,600
繰越利益剰余金	88,178	89,964
利益剰余金合計	100,439	102,226
自己株式	30,640	30,641
株主資本合計	200,607	202,392
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,114	2,506
繰延ヘッジ損益	20	27
評価・換算差額等合計	2,094	2,478
新株予約権	1,376	1,281
純資産合計	204,077	206,151
負債純資産合計	304,865	333,740

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	1 211,734	1 188,769
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	6,633	8,005
当期製品製造原価	1 145,634	1 144,979
当期製品仕入高	1 9,692	1 2,864
合計	161,959	155,849
他勘定振替高	2 277	2 1,559
商品及び製品期末たな卸高	8,005	8,132
売上原価	153,676	146,156
売上総利益	58,058	42,612
販売費及び一般管理費	3, 6 34,259	3, 6 35,566
営業利益	23,798	7,046
営業外収益		
受取利息	1 284	1 551
有価証券利息	30	24
受取配当金	1 2,049	1 2,811
設備賃貸料	1 451	1 415
為替差益	131	115
補助金収入	358	343
その他	202	765
営業外収益合計	3,509	5,027
営業外費用		
支払利息	1 311	1 298
社債利息	-	89
設備賃貸費用	425	359
社債発行費	-	161
休止固定資産減価償却費	364	-
その他	401	448
営業外費用合計	1,503	1,357
経常利益	25,805	10,716
特別利益		
固定資産売却益	4 480	4 132
投資有価証券売却益	-	8
新株予約権戻入益	341	391
抱合せ株式消滅差益	161	-
その他	4	-
特別利益合計	987	532
特別損失		
固定資産除却損	5 1,471	5 474
減損損失	7 948	7 763
投資有価証券評価損	506	6
子会社株式評価損	-	73
その他	153	15
特別損失合計	3,079	1,333
税引前当期純利益	23,713	9,915
法人税、住民税及び事業税	10,649	777
法人税等調整額	2,652	1,628
法人税等合計	7,996	2,405
当期純利益	15,717	7,510

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
1 材料費		38,496	26.2	37,404	25.9
2 労務費		7,976	5.4	7,702	5.3
3 経費		100,505	68.4	99,478	68.8
(内 減価償却費)		(16,392)		(17,586)	
(内 請負費)		(12,234)		(12,449)	
(内 外注加工費)		(40,176)		(40,576)	
当期総製造費用		146,978	100.0	144,584	100.0
仕掛品期首たな卸高		3,706		5,050	
合計		150,685		149,635	
仕掛品期末たな卸高		5,050		4,655	
当期製品製造原価		145,634		144,979	

(原価計算の方法)

当社の原価計算の方法は主に組別工程別総合原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	64,152	64,152
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	64,152	64,152
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	64,579	64,579
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	64,579	64,579
その他資本剰余金		
当期首残高	2,075	2,075
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	2,075	2,074
資本剰余金合計		
当期首残高	66,655	66,655
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	66,655	66,654
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	3,548	3,548
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,548	3,548
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	124	112
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	11	1
当期変動額合計	11	1
当期末残高	112	113

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
別途積立金		
当期首残高	8,600	8,600
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	8,600	8,600
繰越利益剰余金		
当期首残高	76,777	88,178
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	11	1
剰余金の配当	4,327	5,723
当期純利益	15,717	7,510
当期変動額合計	11,401	1,786
当期末残高	88,178	89,964
利益剰余金合計		
当期首残高	89,050	100,439
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	-	-
剰余金の配当	4,327	5,723
当期純利益	15,717	7,510
当期変動額合計	11,389	1,787
当期末残高	100,439	102,226
自己株式		
当期首残高	24,439	30,640
当期変動額		
自己株式の取得	6,201	2
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	6,200	1
当期末残高	30,640	30,641
株主資本合計		
当期首残高	195,418	200,607
当期変動額		
剰余金の配当	4,327	5,723
当期純利益	15,717	7,510
自己株式の取得	6,201	2
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	5,188	1,784
当期末残高	200,607	202,392

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	3,337	2,114
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,223	391
当期変動額合計	1,223	391
当期末残高	2,114	2,506
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	1	20
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	22	7
当期変動額合計	22	7
当期末残高	20	27
評価・換算差額等合計		
当期首残高	3,339	2,094
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,245	384
当期変動額合計	1,245	384
当期末残高	2,094	2,478
新株予約権		
当期首残高	1,213	1,376
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	162	94
当期変動額合計	162	94
当期末残高	1,376	1,281
純資産合計		
当期首残高	199,971	204,077
当期変動額		
剰余金の配当	4,327	5,723
当期純利益	15,717	7,510
自己株式の取得	6,201	2
自己株式の処分	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,083	289
当期変動額合計	4,105	2,074
当期末残高	204,077	206,151

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

2 デリバティブの評価基準及び評価方法

デリバティブ

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

商品、製品、仕掛品.....移動平均法

原材料、貯蔵品.....移動平均法

4 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

機械及び装置 3～22年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

ソフトウェア(自社利用)については社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

5 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見積額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

6 ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約取引

ヘッジ対象：外貨建債権・債務及び外貨建予定取引

ヘッジ方針

当社の「社内管理規程」に基づき、為替変動リスクをヘッジしております。なお、主要なリスクである外貨建売掛債権の為替変動リスクに関しては、実需を推定し、ヘッジする方針であります。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約の締結時に、リスク管理方針に従って、外貨建による同一金額で同一期日の為替予約を対応させているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されており、ヘッジに高い有効性があるものと判断しております。

7 その他財務諸表作成のための重要な事項

重要な繰延資産の処理方法

社債発行費については、支出時に全額費用として処理しております。

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産・負債の主なもの

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形及び売掛金	10,665百万円	11,383百万円
未収入金	5,268百万円	7,292百万円
短期貸付金	1,949百万円	16,873百万円
買掛金	8,559百万円	7,563百万円
未払金	2,671百万円	4,447百万円
預り金	13,550百万円	13,470百万円

2 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
	190,585百万円	209,676百万円

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	90百万円
支払手形	- 百万円	553百万円
設備関係支払手形	- 百万円	340百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との主な取引高

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
関係会社への売上高	39,890百万円	44,876百万円
関係会社からの仕入高	76,770百万円	71,064百万円
関係会社からの受取利息	261百万円	535百万円
関係会社からの受取配当金	1,626百万円	2,362百万円
関係会社からの設備賃貸料	447百万円	411百万円
関係会社への支払利息	105百万円	106百万円

2 他勘定振替高の内容

(前事業年度)

当期は主として研究開発費、見本費等へ振替えております。

(当事業年度)

当期は主として研究開発費、見本費等へ振替えております。

3 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度32%、当事業年度28%、一般管理費に属する費用の割合は前事業年度68%、当事業年度72%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
従業員給料手当	4,702百万円	4,247百万円
賞与引当金繰入額	625百万円	505百万円
役員賞与引当金繰入額	114百万円	113百万円
減価償却費	1,255百万円	957百万円
研究開発費(注)	14,116百万円	15,681百万円

(注) 研究開発費には、主に次に費用が含まれております。

減価償却費	2,772百万円	2,105百万円
賞与引当金繰入額	548百万円	623百万円

4 固定資産売却益の主な資産別内訳

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	0百万円	0百万円
構築物	0百万円	- 百万円
機械及び装置	20百万円	60百万円
車両運搬具	0百万円	- 百万円
工具、器具及び備品	2百万円	2百万円
土地	0百万円	- 百万円
建設仮勘定	457百万円	69百万円

5 固定資産除却損の主な資産別内訳

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	318百万円	49百万円
構築物	148百万円	78百万円
機械及び装置	146百万円	218百万円
車両運搬具	2百万円	- 百万円
工具、器具及び備品	5百万円	0百万円
土地	101百万円	- 百万円
建設仮勘定	748百万円	127百万円

6 一般管理費に含まれている研究開発費

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	14,116百万円	15,681百万円

7 減損損失

前事業年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

当事業年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上しております。

場所	種類	用途	金額
岐阜県 大垣市	建物	遊休	59百万円
岐阜県 大垣市	構築物	遊休	19百万円
岐阜県 大垣市	機械及び装置	遊休	197百万円
岐阜県 大垣市	工具、器具 及び備品	遊休	2百万円
岐阜県 大垣市	建設仮勘定	遊休	670百万円

当社はセグメントを基礎として資産をグルーピングしております。グルーピングの単位である各事業においては減損の兆候がありませんでしたが、使用見込のない遊休資産については個々の資産毎に減損の兆候の判定を行いました。これらの遊休資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(948百万円)として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、備忘価額により評価しております。

当事業年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

当事業年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上しております。

場所	種類	用途	金額
岐阜県 大垣市	機械及び装置	遊休	4百万円
岐阜県 大垣市	建設仮勘定	遊休	758百万円

当社はセグメントを基礎として資産をグルーピングしております。グルーピングの単位である各事業においては減損の兆候がありませんでしたが、使用見込のない遊休資産については個々の資産毎に減損の兆候の判定を行いました。これらの遊休資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(763百万円)として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、備忘価額により評価しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	5,422,678	2,346,331	72	7,768,937

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

当社子会社吸収分割に反対する株主からの

買取りによる増加 2,344,400株

単元未満株式の買取りによる増加 1,931株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による減少 72株

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	7,768,937	987	98	7,769,826

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 987株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による減少 98株

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、電子関連事業における生産設備(機械及び装置)であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

(2) リース資産の償却方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

2 オペレーティング・リース取引(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	94百万円	35百万円
1年超	- 百万円	- 百万円
合計	94百万円	35百万円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式（前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式40,037百万円、関連会社株式1,300百万円、当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式52,544百万円、関連会社株式1,300百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(繰延税金資産)		
減価償却費	2,923百万円	2,747百万円
固定資産減損損失	1,349百万円	575百万円
賞与引当金	891百万円	777百万円
有価証券評価損	836百万円	733百万円
棚卸資産評価替	428百万円	382百万円
その他	3,568百万円	2,134百万円
繰延税金資産小計	9,997百万円	7,351百万円
評価性引当額	3,819百万円	2,810百万円
繰延税金資産合計	6,178百万円	4,541百万円
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	74百万円	61百万円
その他有価証券評価差額金	1,397百万円	1,337百万円
繰延税金負債合計	1,472百万円	1,399百万円
繰延税金資産の純額	4,706百万円	3,141百万円

(注) 繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	2,470百万円	1,265百万円
固定資産 - 繰延税金資産	2,236百万円	1,876百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率の差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	39.8%	39.8%
外国税額控除	0.3%	1.8%
法人税額の特別控除	2.5%	2.7%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	2.8%	10.3%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.3%	1.7%
過年度法人税等	6.8%	1.0%
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	- %	7.4%
評価性引当額の減少	8.6%	10.2%
その他	1.0%	0.6%
税効果会計適用後の法人税等 の負担額	33.7%	24.3%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度の39.8%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.2%、平成27年4月1日以降のものについては34.8%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が142百万円、繰延ヘッジ損益が1百万円、それぞれ減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が333百万円、その他有価証券評価差額金が192百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の金額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	1,416.58円	1,431.75円
1株当たり当期純利益金額	109.25円	52.49円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	107.99円	51.98円

(注) 算定上の基礎

1 1株当たり純資産額

	前事業年度末 (平成23年3月31日)	当事業年度末 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	204,077	206,151
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	1,376	1,281
(うち新株予約権)	(1,376)	(1,281)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	202,701	204,870
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(千株)	143,091	143,090

2 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	15,517	7,510
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	15,517	7,510
期中平均株式数(千株)	143,874	143,091
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	1,670	1,398
(うち新株予約権)	(1,670)	(1,398)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株 式の概要		

(重要な後発事象)

特記すべき重要な事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資有価証券	その他有価証券	(株)豊田自動織機	2,763,000	6,896
		スズキ(株)	1,199,000	2,370
		三井不動産(株)	1,086,000	1,719
		(株)デンソー	590,000	1,631
		(株)十六銀行	4,005,939	1,141
		(株)大垣共立銀行	3,691,500	1,100
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	357,524	973
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	2,332,030	960
		東邦瓦斯(株)	1,567,362	764
		J S R(株)	341,000	568
		その他48銘柄	6,605,876	4,224
計		24,539,231	22,350	

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)	
有価証券	その他有価証券	F F F	14,021,571,019	14,021
		C F R	13,070,077,025	13,070
		中期国債ファンド	102,449,988	102
計		27,194,098,032	27,194	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末 減価償却 累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引 当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	66,825	6,854	105	73,573	40,961	3,551	32,612
構築物	19,541	737	211	20,067	11,637	988	8,429
機械及び装置	151,087	18,505	5,319 (4)	164,273	145,246	18,210	19,027
車両運搬具	249	26	1	273	214	34	58
工具、器具及び備品	11,602	1,283	314	12,571	10,646	1,612	1,925
土地	10,889	104		10,994			10,994
リース資産	1,938	37	12	1,964	969	216	994
建設仮勘定	14,849	24,362	31,215 (758)	7,997			7,997
有形固定資産計	276,985	51,911	37,180 (763)	291,716	209,676	24,614	82,039
無形固定資産							
特許権				83	76	3	6
借地権				661	5	1	656
ソフトウェア				5,295	4,542	671	752
リース資産				5	3	1	1
無形固定資産計				6,045	4,628	677	1,416
長期前払費用	2,111	32	1	2,142	1,509	121	632
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	大垣中央事業場	5,115 (百万円)
建物	大垣事業場	809 (百万円)
機械及び装置	大垣事業場 P K G 製造設備	9,526 (百万円)
機械及び装置	河間事業場 C S P 製造設備	5,760 (百万円)
機械及び装置	大垣北事業場 技術開発設備	1,415 (百万円)
機械及び装置	大垣中央事業場 P K G 製造設備	871 (百万円)

2 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置	大垣事業場 P K G 製造設備	2,830 (百万円)
機械及び装置	河間事業場 C S P 製造設備	1,381 (百万円)

3 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

4 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	81	80	-	81	80
賞与引当金	2,241	2,090	2,241	-	2,090
役員賞与引当金	114	113	114	-	113

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替等によるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

(イ)流動資産

1)現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	0
預金	
当座預金	17,683
普通預金	33
自由金利型定期預金	15,200
小計	32,917
計	32,917

2)受取手形

相手先	金額(百万円)
サス・サンワ(株)	406
(株)極東商会	231
坂本工業(株)	127
(株)三五	119
トヨタ自動車(株)	111
その他	256
計	1,251

期日別内訳

期日	平成24年 4月中	5月中	6月中	7月中	8月中	計
受取手形 (百万円)	360	447	143	275	25	1,251

3) 売掛金

相手先	金額(百万円)
Intel Corp.	13,047
イビデンU.S.A.(株)	4,852
日本サムスン(株)	2,538
イビデンドイツ(株)	2,510
Amkor Technology Inc.	1,348
その他	8,576
計	32,874

回収状況及び滞留期間

摘要	当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
	(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{((A)+(D)) \div 2}{(B) \div 366}$
自 平成23年4月 至 平成24年3月	35,458	190,180	192,764	32,874	85.4	65.8

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用していますが、上記金額には消費税等が含まれております。

4) 商品及び製品

区分	金額(百万円)
商品	
機能品セラミック製品	13
小計	13
製品	
電子関連製品	5,271
機能品セラミック製品	87
車載セラミック製品	2,760
小計	8,119
合計	8,132

5)仕掛品

区分	金額(百万円)
電子関連製品	2,916
機能品セラミック製品	1,652
車載セラミック製品	86
合計	4,655

6)原材料及び貯蔵品

区分	金額(百万円)
原材料	
電子関連製品部品	1,382
車載セラミック製品部品	280
その他	218
小計	1,881
貯蔵品	
研究用資産	172
修繕関係	1,543
その他	8
小計	1,725
合計	3,606

7)短期貸付金

区分	金額(百万円)
イビデンフィリピン(株)	13,140
イビデンエレクトロニクスマレーシア(株)	3,691
イビテック(株)	30
イビデン物産(株)	11
合計	16,873

(口)固定資産

1)関係会社株式

区分	金額(百万円)
イビデンヨーロッパホールディングス(株)	12,691
イビデンエレクトロニクスマレーシア(株)	9,434
揖斐電電子(北京)有限公司	8,372
イビデンフィリピン(株)	5,553
イビケン(株)	4,245
その他	13,547
計	53,844

2)関係会社長期貸付金

区分	金額(百万円)
イビデンエレクトロニクスマレーシア(株)	23,941
イビデンフィリピン(株)	4,106
計	28,047

負債の部

(イ)流動負債

1)支払手形

相手先	金額(百万円)
ファインネクス(株)	2,047
上村工業(株)	485
(株)東京商会	335
旭日産業(株)	275
旭化成イーマテリアルズ(株)	268
その他	3,327
計	6,739

期日別内訳

期日	平成24年 4月中	5月中	6月中	7月中	8月中	計
支払手形 (百万円)	1,185	2,548	760	2,157	86	6,739

2)買掛金

相手先	金額(百万円)
三菱樹脂(株)	4,155
(株)ティーアイピーシー	2,764
イビデンフィリピン(株)	2,347
味の素ファインテクノ(株)	1,296
屋久島電工(株)	1,142
その他	14,322
計	26,028

3)設備関係支払手形

相手先	金額(百万円)
清水建設(株)	1,946
マキナ工業(株)	356
(株)マキナ	245
朝日電材(株)	219
(株)神戸製鋼所	193
その他	959
計	3,921

期日別内訳

期日	平成24年 4月中	5月中	6月中	7月中	8月中	計
設備関係支払手形 (百万円)	341	414	0	2,429	735	3,921

(口)固定負債

1)社債

区分	金額(百万円)
第5回無担保社債	25,000
第6回無担保社債	15,000
計	40,000

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・ 売渡し	
取扱場所	(特別口座) 名古屋市中区栄3丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取・売渡手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は電子公告といたします。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 なお、電子公告は当会社のホームページに記載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.ibiden.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 1 本会社の単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株式予約権の割当てを受ける権利

株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

2 特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社は平成24年4月1日をもって、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、商号を「三井住友信託銀行株式会社」に変更し、以下のとおり商号・住所等が変更となっております。

取扱場所 (特別口座)

名古屋市中区栄3丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

株主名簿管理人 (特別口座)

東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

- | | | | |
|----------------------------|--|-------------------------------|---------------------------|
| (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書 | 事業年度(第158期) | 自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日 | 平成23年6月22日
関東財務局長に提出。 |
| (2) 内部統制報告書 | 事業年度(第158期) | 自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日 | 平成23年6月22日
関東財務局長に提出。 |
| (3) 四半期報告書及び確認書 | (第159期第1四半期) | 自 平成23年4月1日
至 平成23年6月30日 | 平成23年8月12日
関東財務局長に提出。 |
| | (第159期第2四半期) | 自 平成23年7月1日
至 平成23年9月30日 | 平成23年11月11日
関東財務局長に提出。 |
| | (第159期第3四半期) | 自 平成23年10月1日
至 平成23年12月31日 | 平成24年2月13日
関東財務局長に提出。 |
| (4) 有価証券報告書に関する訂正報告書及び確認書 | 事業年度(第158期) | 自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日 | 平成23年8月23日
関東財務局長に提出。 |
| (5) 臨時報告書 | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書 | | 平成23年6月23日
関東財務局長に提出。 |
| | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号(代表取締役の異動)の規定に基づく臨時報告書 | | 平成23年12月27日
関東財務局長に提出。 |
| (6) 発行登録書(普通社債)及びその添付書類 | | | 平成23年8月24日
関東財務局長に提出。 |
| (7) 発行登録追補書類(普通社債)及びその添付書類 | | | 平成23年9月8日
関東財務局長に提出。 |
| (8) 訂正発行登録書 | | | 平成23年6月22日 |
| | | | 平成23年6月23日 |
| | | | 平成23年8月12日 |
| | | | 平成23年8月23日 |
| | | | 平成23年11月11日 |
| | | 平成23年12月27日 | |
| | | 平成24年2月13日 | 関東財務局長に提出。 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6月20日

イビデン株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	平	野	晃
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大	橋	正 明
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	関	口	俊 克

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているイビデン株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、イビデン株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、イビデン株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、イビデン株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月20日

イビデン株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	平	野	晃
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大	橋	正 明
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	関	口	俊 克

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているイビデン株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第159期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、イビデン株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。